

年間指導計画表

教科・科目	国語・現代文B	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科・第2学年共通

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を養う。
使用教科書・副教材等	高等学校現代文B(三省堂) 「意味から学ぶ頻出漢字3000」(第一学習社)「評論・小説を読むための新現代文単語」(いいずな書店)「五訂版 正しく読み・解くための力をつける現代文 ステップ3」(数研出版)「進研WINSTEP現代文2三訂版」(株式会社ラーンス)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重して其の向上を図ろうとする。	授業態度 発問評価 課題提出	25%
b. 話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話したりの確に聞きとったりして、自分の考えを深め、発展させている。	授業態度 発問評価 課題提出 定期考査	50%
c. 書く能力	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	授業態度 発問評価 課題提出 定期考査	
d. 読む能力	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	授業態度 発問評価 課題提出 定期考査	
e. 知識・理解	言語文化及び言語の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。	授業態度 発問評価 課題提出 定期考査	25%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	e
前期	4	4	「文系と理系の壁はあるか」(最相葉月)	・筆者が提示する、一般的な問いについて吟味し、その問題点を改めて深く考え、新たな視座を得る。					
	5	7	『山月記』(中島敦)	・文語体の表現を味わい、書かれた内容を正確に読み取ることで、時代や人間のあり方について理解を深める。	○	○	○	○	○
	6	4	『『市民』のイメージ』(日野啓三)	・筆者の問題提起はどこにあるのか、何を問題としているのかを捉え、「市民」とはどのような者のことを指すのかという筆者の主張を理解する。					
		1	第1回考査						
	7	3	『ミロのヴィーナス』(清岡卓行)	・筆者の逆説的な主張を捉えるとともに、比喩や抽象的語句を用いた巧みな表現を理解する。					
	8・9	5	『戦争の(不可能性)』(西谷修)	・長文を速読することに慣れるとともに、論理展開を丁寧に追って、筆者の提示する新たな視点について考える。	○	○	○	○	○
後期	9	6	『檸檬』(梶井基次郎)	・場面の叙述や情景描写と「私」の状況や立場との関係を的確に把握し、「私」の心理の推移について、作品の展開に即して読み取る。					
		1	第2回考査						
	10	6	「ロゴスと言葉」(丸山圭三郎)	・接続詞や指示語に注意しながら筆者の論理展開を正確に把握し、言葉の本質を理解する。					
	11	5	「鞠」(安部公房)	・物語の構成や「私」の言動を理解し、物語の寓話的意味を考える。	○	○	○	○	○
		5	「パンの話」(吉原幸子) 「永訣の朝」(宮沢賢治) 短歌十六首・俳句十六句 〔抜粋〕	・内容、構成、表現、主題、動機について理解し、根拠ある鑑賞のしかたを身につけ、個性豊かな表現を味わう。					
	12	1	第3回考査						
	12	3	「忘れられる権利」(宮下紘)	・最先端の概念である「忘れられる権利」を丁寧に吟味しながら、論の展開をしっかりとつかみ、評論の組み立て人物相互の関わりから生ずる心の動きを捉え、人間の心の奥深さを味わい、自己の内面を見つめる姿勢を身につける。	○	○	○	○	○
1	9	「こころ」(夏目漱石)							
2	8	「南の貧困/北の貧困」(見田宗介)	・今日的な視点で「貧困」の問題を眺め、南北問題を踏まえた上で、それぞれの立場の根本的な問題点を理解する。						
3	1	第4回考査							

年間指導計画表

教科・科目	国語・古典B	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科・第2学年共通

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	古典としての古文と漢文をよむ能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	○古典教科書 「精選古典B 古文編」「同 漢文編」(東京書籍) ○古典副教材 「わかる・読める・解けるkey&point 古文単語330」(浜島書店) 「進研WINSTEP古典2改訂版」(株式会社ラーズ) 「2+錬成古文改訂版」(尚文出版) 「2+錬成漢文改訂版」(尚文出版) 「古典文法習得のためのまぎらわしい語の識別マスターノート改訂版」(数研出版) 「古典文法習得のための敬語マスターノート改訂版」(数研出版) 「短期集中シリーズ和歌」(桐原書店) 「プレミアムカラー国語便覧」(数研出版) 「読解を大切に体系古典文法」(数研出版) 「読解を大切に体系古典文法学習ノート」(数研出版) 「基礎から解釈へ 漢文必携四訂版」(桐原書店) 「基礎から解釈へ 漢文必携チェックノート応用編」(桐原書店) 国語辞典・古語辞典・漢和辞典等の辞書

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	古典を読む力を高め、作品の価値について自ら考察するとともに、我が国の文化の特質や中国の文化との関係について理解を深めようとする。古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	ノート、授業態度、提出物	25%
b. 読む能力	古典を読んで、内容及び思想や感情を、構成や展開に即して的確に捉え、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにしようとする。古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	提出物、定期考査、小テスト	50%
c. 知識・理解	古典の理解に役立てるため、語句の意味、用法、文の構造、文法、音声、表記等を理解し、知識を身に付けている。伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。	提出物、定期考査、小テスト	25%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点		
					a	b	c
前期 (第1回)	4	4	『宇治拾遺物語』『小野篁、広才のこと』	・当時の慣習、登場人物の心情を理解して、説話の世界を読み味わう。 ・説話を読み、展開や内容のおもしろさを味わう。 ・既習の文法事項を確認する。	○	○	○
			『枕草子』 「中納言参り給ひて」 「雪のいと高う降りたるを」 「すさまじきもの」	・当時の宮廷文化やその背景を理解して、筆者の美意識やものの見方を読み取る。 ・章段ごとの多様な表現の面白さを味わう。 ・敬語の用法(種類・敬意の対象)について理解する。	○	○	○
	5	4	『十八史略』『先從隗始』 『韓非子』『不死之薬』	・機知に富んだ文章を正確に読み解き、その内容を理解する。 ・登場人物の描かれ方に留意し、その人物像を理解する。 ・基本的な句法・語法を理解する。	○	○	○
			『徒然草』『花は盛りに』	・随筆を読み、作者のものの見方や感じ方、考え方の違いについて考察する。 ・筆者の、既存の価値観に対する批判的な姿勢を読み取る。 ・既習の文法事項を確認する。	○	○	○
	6	5	『世説新語』『小時了了』	・話の展開に即して、内容を正確に読み取る。 ・発想や表現の特色を理解し、小説のおもしろさを味わう。 ・基本的な句法・語法を確認する。	○	○	○
			4	『世説新語』『小時了了』	・話の展開に即して、内容を正確に読み取る。 ・発想や表現の特色を理解し、小説のおもしろさを味わう。 ・基本的な句法・語法を確認する。	○	○
		1		第1回定期考査		○	○

前期 (第2回)	7	3	『楚辞』『漁父之辞』(屈原)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章にこめられた思想や主張を読み取る。</li> <li>・文章の展開を理解するとともに、筆者の考え方を読み取る。</li> <li>・対句の特徴を理解する。疑問、反語、受身の句法を理解する。</li> </ul>	○	○	○
	8	3	『更級日記』 「門出」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平安女流日記文学の特徴とともに、当時の人々の文化、生活を理解する。</li> </ul>	○	○	○
		4	「物語」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作者の物語へのあこがれと、場面に応じた心情の変化を読み取る。</li> <li>・助動詞の知識を確認し、解釈に生かす。</li> </ul>	○	○	○
	9	3	『古文真宝後集』 「春夜宴桃李園序」(李白)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章にこめられた作者の主張を理解する。</li> <li>・文章の構成や展開、表現技巧を通して、文章表現の巧みさおもしろさを味わう。</li> <li>・基本的な句法・語法を理解する。</li> </ul>	○	○	○
	8	『源氏物語』 「桐壺」(前半)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『源氏物語』の時代背景、当時の宮廷生活と作者紫式部について理解する。</li> <li>・物語の構成、内容を理解して、登場人物の心情を、それぞれの場面に応じて読み取る。</li> <li>・語彙や、助詞・助動詞、敬語などの文法事項を総合的に理解する。</li> </ul>	○	○	○	
	1	第2回定期考査		○	○	○	
後期 (第3回)	10	6	『源氏物語』 「桐壺」(後半)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『源氏物語』の時代背景、当時の宮廷生活と作者紫式部について理解する。</li> </ul>	○	○	○
	11	5	「若紫」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の構成、内容を理解して、登場人物の心情を、それぞれの場面に応じて読み取る。</li> <li>・語彙や、助詞・助動詞、敬語などの文法事項を総合的に理解する。</li> </ul>	○	○	○
		6	『史記』 「鴻門之会」 「四面楚歌」 「項王自刎」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『史記』と作者司馬遷、本文の時代背景を理解するとともに、著名な逸話について興味を持ち、内容を深く知ろうとする。</li> <li>・登場人物の人間関係を整理して、その言動と心情を話の展開に沿って読み取る。</li> <li>・口語訳の際に留意を要する句法・語法、語彙を理解する。</li> </ul>	○	○	○
	12	8	『大鏡』 「道長、伊周の競射」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史上の事実と物語の語られ方を知り、歴史物語の特徴と文学史的意義を理解する。</li> <li>・登場人物の心情を、状況や行動に即して丁寧にたどり理解する。</li> <li>・語彙や、助詞・助動詞、敬語などの文法事項を総合的に理解する。</li> </ul>	○	○	○
	1	第3回定期考査		○	○	○	
後期 (第4回)	1	8	『大鏡』 「花山天皇の出家」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史上の事実と物語の語られ方を知り、歴史物語の特徴と文学史的意義を理解する。</li> <li>・登場人物の心情を、状況や行動に即して丁寧にたどり理解する。</li> <li>・語彙や、助詞・助動詞、敬語などの文法事項を総合的に理解する。</li> </ul>	○	○	○
	2	2	『孟子』 「性之善也、猶水之就下」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・儒家・道家の思想を個々の相違点を意識しながら理解するとともに、人間の生き方やあり方についての考えを深める。</li> </ul>	○	○	○
		2	『老子』 「大道廃有仁義」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡潔な表現や巧みな比喩に注目しながら、内容を的確に読み取る。</li> </ul>	○	○	○
		2	『莊子』 「曳尾於塗中」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な句法・語法を理解する。</li> </ul>	○	○	○
	8	問題演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な時代、ジャンルの文章を、それぞれが成立した時代背景を含めて理解する。</li> <li>・設問を通じて、内容を読み取るとともに、内容理解の手順について理解する。</li> <li>・既習の文法事項、単語、句法、語法について確認する。</li> </ul>	○	○	○	
3	1	第4回定期考査		○	○	○	
【その他】							

年間指導計画表

教科・科目	地歴科・世界史A	単位数	2単位
		学科・学年・学級	普通科・2年・理型・創造表現

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	①教科書：山川出版社『現代の世界史』 ②資料集：東京法令出版『世界史のミュージアム』

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出	30%
b. 思考・判断・表現	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査	20%
c. 技能	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・課題提出 ・ノート提出	10%
d. 知識・理解	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出 ・定期考査	40%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	20	【一体化に向かう世界】 ●諸地域世界の特質  ●大航海時代  〈第一回考査〉  ●アジア諸国の繁栄	○中国文明の起源・国家の変遷と、日本を含む東アジア諸国との関係を理解する。 ○インド・オリエント・イスラーム文明の成立と発展について理解する。 ○地中海一帯の古代文明から中世ヨーロッパ世界が形成され、発展したことを理解させる。  ○ヨーロッパ世界の拡大とアメリカ大陸の征服、それに伴うヨーロッパ社会の変革の動きを理解する。  ○中国、イスラーム帝国の動向、社会・文化の特質とともに東アジア世界の状況、東南アジア交易の発展を考察する。	○	○	○	○
	5				○	○	○	○
	6				○		○	○
	7					○		○
	8				○	○		○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期 / 後期	9	16	●近代の欧米社会	<p>○イギリス産業革命、アメリカ独立革命、フランス革命及びナポレオンが近代社会に与えた影響について理解する。 ○ウィーン体制の成立と崩壊、自由主義とナショナリズムの運動及び国民国家の形成過程について理解する。</p> <p>○ヨーロッパ諸国の進出をうけたアジア諸国での抵抗運動、植民地化の様子を考察できるようにする。</p> <p>○帝国主義時代における欧米列強諸国の国家・社会の変化を理解する。 ○欧米諸国の支配を受けたアジア諸国の改革と民族運動の形成を理解する。</p>	○	○		○
	10		●ヨーロッパの進出とアジア		○	○	○	○
	11	14	【現代世界と日本】 ●帝国主義とアジアの民族運動		○	○	○	○
	12		<第3回考査>			○		○
後期	1	20	●二つの世界大戦	<p>○第一次世界大戦とロシア革命が国際秩序に大きな変化をもたらしたことを理解する。 ○第二次世界大戦に至る過程と米ソの国際的地位の高まりを理解する。</p> <p>○冷戦の激化、第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り、冷戦の終結を理解させる。</p> <p>○1990年代のグローバル経済の進展を理解する。また世界で多発する地域紛争とテロ、紛争解決や軍縮の試みを考察する。</p>	○	○	○	○
	2		●冷戦の時代		○		○	
	3		●グローバル化した世界		○	○	○	○
			<第4回考査>		○		○	
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	地歴科・世界史B	単位数	4単位
		学科・学年・学級	普通科・2年・文型クラス

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特徴を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	①教科書:東京書籍『世界史B』 ②資料集:東京法令出版『世界史のミュージアム』

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出	30%
b. 思考・判断・表現	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特徴を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査	20%
c. 技能	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・課題提出 ・ノート提出	10%
d. 知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出 ・定期考査	40%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	40	【さまざまな世界の時代】 ●文明以前の人類 ●オリエント世界と東地中海世界 ●地中海世界と西アジア	○人類が自然環境に適応しながら進化し、農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げたことを理解する。 ○オリエント文明の盛衰とギリシア・ヘレニズム文明の特徴を理解する。	○	○	○	○
			●南アジア世界	○古代ローマ文明の特徴を理解し、イラン文明との関係を理解する。 ○南アジアの地理的特質を把握し、インド文明の成立と発展について理解する。 ○中国文明の起源・国家の変遷と、日本を含む東アジア諸国との関係を理解する。	○	○	○	○
			●東アジア世界	○東南アジアの地理的特質を把握し、東南アジア世界における国家形成の過程を理解する。 ○先住民による南北アメリカ文明の形成とその特色を理解する。	○	○	○	○
	5	40	●内陸ユーラシア世界 ●東南アジア世界の形成	○イスラーム世界の形成・発展、インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化について理解する。 ○隋・唐の国家制度や文化、日本を含む東アジア世界諸国の国家体制の整備やその動向を理解する。 ○地中海一帯の古代文明から中世ヨーロッパ世界が形成され、発展したことを理解させる。	○	○	○	○
			●古アメリカ世界	○周辺諸民族の台頭や日本を含めた東アジア諸地域の勢力後退、中国王朝との関連性を理解する。 ○モンゴル帝国の興亡と、その活動が日本を含む諸地域世界に与えた影響を考察する。	○	○	○	○
			●ヨーロッパ世界の成立と変容 ●ユーラシア大陸帝国の栄光	○	○	○	○	
6	40	〈第一回考査〉 【競い合う世界の時代】 ●イスラーム世界の成立と発展 ●東アジア世界の変容	○	○	○	○		
		●ヨーロッパ世界の成立と変容 ●ユーラシア大陸帝国の栄光	○	○	○	○		
		○	○	○	○			

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d	
前期 / 後期	7	32	【一体化する世界】 ● 海域世界の発展 ● 中華帝国とアジア	○ 中華帝国を再現した明朝の動向とともに、清朝の形成した広大な領域支配と社会や文化を理解し、東アジアの状況を把握する。	○	○	○	○	
	8				○	○	○	○	
	9		● 大交易時代 ● 近世のヨーロッパ	○ ヨーロッパ世界の拡大とアメリカ大陸の征服、それに伴うヨーロッパ社会の変革の動きを理解する。 ○ ルネサンスのもたらした変革の内容と意義を理解する。 ○ 宗教改革の理念とその拡大、カトリックの対応を理解する。 ○ 近代国家の原型となった主権国家体制の特色と、体制の形成に向かうヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向を理解する。 ○ ヨーロッパ諸国の植民地争奪戦の動向を理解する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	
	10		<第二回考査>				○	○	○
	11	28	● 欧米における国民国家の形成	○ イギリス産業革命、アメリカ独立革命、フランス革命及びナポレオンが近代社会に与えた影響について理解する。 ○ ウィーン体制の成立と崩壊、自由主義とナショナリズムの運動及び国民国家の形成過程について理解する。	○	○	○	○	
	12		● 産業資本主義の発展と帝国主義 ● アジア諸地域の変革運動 <第三回考査>	○ 帝国主義時代における欧米列強諸国の国家・社会の変化を理解する。 ○ 欧米諸国の支配を受けたアジア諸国の改革と民族運動の形成を理解する。	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	
後期	1	40	【地球世界の成立】 ● 世界戦争の時代 ● 国民国家体制と東西の対立 ● 君たちの時代へ	○ 第一次世界大戦とロシア革命が国際秩序に大きな変化をもたらしたことを理解する。 ○ 第二次世界大戦に至る過程と米ソの国際的地位の高まりを理解する。 ○ 冷戦の激化、第三世界の台頭と米ソの歩み寄り、冷戦の終結を理解させる。 ○ 1990年代のグローバル経済の進展を理解する。また世界で多発する地域紛争とテロ、紛争解決や軍縮の試みを考察する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	
	2								
	3		<第四回考査>			○	○	○	

## 年間指導計画表

教科・科目	地歴科・日本史A	単位数	2単位
		学科・学年・学級	普通科普通・2年・理型クラス 普通科創造表現コース・2年

## 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	①教科書：山川出版社『日本史A』 ②資料集：浜島書店『新詳日本史』 ③史料集：第一学習社『詳録新日本史史料集成』 ④学習ノート：山川出版社『詳説日本史ノート』

## 2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出	30%
b. 思考・判断・表現	日本の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や日本の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査	20%
c. 技能	日本の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめている。	・課題提出 ・ノート提出	10%
d. 知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出 ・定期考査	40%

## 3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	5	○近代への胎動	近現代につながる日本の前近代の歴史を東アジアとの関わりから深める。	○	○	○	○
	5	7	○開国と明治維新	開国から明治維新に至るまでの過程について、国際環境の変化に着目して理解する。また、幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡に至るまでの経過を社会・経済の変化と関わらせて理解する。	○	○		○
	6	8	○立憲国家の成立 1  <第1回考査>	明治新政府の諸制度の改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を理解する。また、政府の強力な中央集権体制の志向のなか、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間に、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。	○	○		○
						○	○	○



学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期	7	8	○立憲国家の成立 2	大日本帝国憲法の成立と帝国議会のあり方を理解する。欧米諸国と対等の地位に立つために国家的課題であった不平等条約の改正を行い、東アジアへの進出により欧米列強への仲間入りをめざした経過について考察する。また、日露戦争の勝利による欧米列強の仲間入りの経緯とその後の植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。	○	○	○	○
		8	○歴史の追究	夏季休業中を利用した主体的な学習活動により、地域の文化遺産についての関心を高め、文化財保護の重要性について認識を深める。	○		○	
	9	8	○立憲国家の成立 3	立憲体制成立後から第一次世界大戦に至るまでの国内政治の動きを、政党と藩閥の抗争などの視点から理解する。日清戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が形成された過程を考察する。また、日露戦争後に資本主義国家が確立していくことを考察する。近代産業の発展に伴う社会問題・労働問題の発生や、国民生活の向上について考察する。	○	○		○
	10		〈第2回考査〉				○	○
後期	11	7	○第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移について、日本の中国進出の状況を踏まえて考察する。ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して考察する。社会運動の動向を理解するとともに、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について理解する。	○	○	○	○
		7	○昭和の恐慌と満州事変	戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内外の状況について、経済政策に加えて政治・経済の動揺にも着目する。社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。日本の対外政策の推移について世界情勢や軍部の政治進出の拡大による政党内閣の崩壊過程も踏まえて考察する。	○	○		○
	12		〈第3回考査〉				○	○
後期	1	6	○第二次世界大戦と日本	日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。	○	○		○
		6	○占領下の日本	戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を理解するとともに、戦後政治の集大成となる日本国憲法制定の意義を理解する。	○	○		○
	3	5	○経済繁栄と保守長期政権	55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。また、高度経済成長を遂げる過程で日本社会が大きく変貌したことや、アメリカのアジア政策に協力することによって日本が国際的地位を高めたことを理解する。	○	○		○
		3	○現代の世界と日本	冷戦構造の崩壊による流動的な世界情勢が生まれる中で、21世紀の日本が直面している多くの課題があることについて理解を深める。	○	○	○	○
			〈第4回考査〉			○	○	

年間指導計画表

教科・科目	地歴科・日本史B	単位数	4単位
		学科・学年・学級	普通科普通・2年・文型クラス

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	①教科書: 山川出版社『詳説日本史B』 ②資料集: 浜島書店『新詳日本史』 ③史料集: 第一学習社『詳録新日本史史料集成』

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出	30%
b. 思考・判断・表現	日本の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や日本の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査	20%
c. 技能	日本の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・課題提出 ・ノート提出	10%
d. 知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出 ・定期考査	40%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	10	○日本文化のあけぼの	遺跡や遺物など様々な歴史的資料の特性に着目し、資料に基づいて歴史が叙述されていることなど歴史を考察する基本的な方法を理解させ、歴史への関心を高めるとともに、文化財保護の重要性に気付く。	○	○	○	○
	5	15	○律令国家の形成	我が国において国家が形成され律令体制が確立する過程、隋・唐など東アジア世界との関係、仏教文化に着目して、古代国家の形成と展開、文化の特色とその成立の背景について考察する。	○	○		○
	6	15	○貴族政治と国風文化  <第1回考査>	東アジア世界との関係の変化、荘園・公領の動きや武士の台頭など諸地域の動向に着目して、古代国家の推移、文化の特色とその成立の背景及び中世社会の萌芽について考察する。	○	○		○
						○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d	
前期	7	8	○中世社会の成立	武士の土地支配と公武関係、宋・元などとの関係、仏教の動向に着目して、中世国家の形成過程や社会の仕組み、文化の特色とその成立の背景について考察する。	○	○		○	
		8	○武家社会の成長	中世の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界との関係、産業経済の発展、庶民の台頭と下剋上、武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽に着目して、中世社会の多様な展開、文化の特色とその成立の背景について考察する。	○	○		○	
	8	○歴史の追究	夏季休業中を利用した主体的な学習活動により、地域の文化遺産についての関心を高め、文化財保護の重要性について認識を深める。	○		○			
		8	○幕藩体制の確立	ヨーロッパ世界との接触やアジア各地との関係、織豊政権と幕藩体制下の政治・経済基盤、身分制度の形成や儒学の役割、文化の特色に着目して、近世国家の形成過程とその特色や社会の仕組みについて考察する。	○	○		○	
	8	○幕藩体制の展開	幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展、町人文化の形成、欧米諸国のアジアへの進出、学問・思想の動きに着目して、近世の都市や農山漁村における生活や文化の特色とその成立の背景、幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成について考察する。	○	○		○		
10		〈第2回考査〉				○	○	○	
後期	11	14	○近代国家の成立	開国と幕府の滅亡、文明開化など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、明治維新以降の我が国の近代化の推進過程について考察する。	○	○		○	
	12	14	○二つの世界大戦とアジア	国際社会の中の日本の立場に着目して、第一次世界大戦前後の対外政策の推移や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響について考察する。また、国際社会の動向、国内政治と経済の動揺、アジア近隣諸国との関係に着目して、対外政策の推移と戦時体制の強化など日本の動向と第二次世界大戦とのかかわりについて考察する。	○	○		○	
			〈第3回考査〉				○	○	○
後期	1	15	占領下の日本	戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を理解するとともに、戦後政治の集大成となる日本国憲法制定の意義を理解する。	○	○		○	
	2	15	高度成長の時代	55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。また、高度経済成長を遂げる過程で日本社会が大きく変貌したことや、アメリカのアジア政策に協力することによって日本が国際的地位を高めたことを理解する。	○	○		○	
	3	10	激動する世界と日本	冷戦構造の崩壊による流動的な世界情勢が生まれる中で、21世紀の日本が直面している多くの課題があることについて理解を深める。	○	○	○	○	
			〈第4回考査〉				○	○	○

年間指導計画表

教科・科目	地歴科・地理A	単位数	2単位
		学科・学年・学級	普通科・2年・理系クラス

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	①教科書:第一学習社『高等学校 新地理A 世界に目を向け、地域に学ぶ』 帝国書院『新詳高等地図』 ②資料集:東京法令出版『新編地理資料 2022』

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出	20%
b. 思考・判断・表現	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査	10%
c. 技能	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・課題提出 ・ノート提出	10%
d. 知識・理解	現代世界の地理的な事象から課題を見出し、諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出 ・定期考査	60%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	20	【地球儀や地図でとらえる現代世界】 ●球面で世界を考えよう ●世界地図の特徴知ろう 【日常生活と結びついた地図】 ●地図表現について考えよう ●地形図を活用しよう 【世界の人々の生活をとりまく地理的環境】 ●世界的視野からみた地形 ●さまざまな地形と生活 〈第1回考査〉  ●世界的視野から見た気候 ●世界の気候と生活	○地球が球体であるため、面積・形・距離・方位が全て正しい地図はありえないことを理解する。 ○世界地図各々の特徴を理解する。特にメルカトル図法と正距方位図法の特徴には注意する。 ○統計地図の種類と特徴を理解し、用途に適した地図を使えるようにする。 ○地形図に関する基本的な知識を学習し、地図の利用について、理解を深める。  ○人類の生活の場である地形は46億年にわたる地球史の産物であり、変化と多様性に富んでいることを理解する。 ○内的営力による地形の成因と人間生活の関わりについて考える。また、外的営力による様々な地形の成因別特徴と形成プロセスを学習する。  ○気候環境を構成している気候要素について理解する。 ○気候区分類の理解を通じて、目に見えない大気の現象と人間生活への影響を把握する。気候を総合的に捉えることにより、環境としての植生や土壌の理解を深める。	○	○		○
	5				○	○		○
	6				○	○		○
	7				○	○	○	○
	8			○	○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期 / 後期	9	16	●生活・文化を支える産業の地域性	○衣食住の自然環境との関係、宗教との関係について理解する。 ○地域によって異なる農業・林業・水産業が成立していることに気づき、自然環境や社会環境の中で、私たちの生活とどのような関わりがあるのか理解する。 ○世界経済の発展に伴い農業形態の地域文化が進んだことを理解する。 ○各農業地域が抱えている問題点について考える。	○	○	○	○
	10		<第2回考査>		○	○	○	○
	11	14	●世界の民族・宗教と生活と文化 【自然環境と防災】 ●日本の自然と生活 ●自然災害に備えた暮らし	○衣食住の自然環境との関係、宗教との関係について理解する。  ○日本の自然環境を学習し、私たちの生活との関連を考える。 ○日本各地で起こりうる災害を予測するとともに減災について考察し、災害時に適切な行動が出来る。	○	○	○	○
	12		【私たちが直面する地球的課題】 ●人口問題 ●都市・居住問題 ●資源・エネルギー問題 ●地球環境問題  <第3回考査>	○先進国・発展途上国における人口問題の原因について考察し、解決方法を追及する。 ○先進国の都市問題の課題と都市の再生、発展途上国の都市問題の原因と課題について考察する。 ○エネルギー・鉱産資源の生産と流通から生じる南北間の経済格差を理解し、その解決策を見出す。 ○熱帯林の破壊や地球の温暖化などを地球規模の環境問題について考える。	○	○	○	○
後期	1		【生活圏の地理的な諸課題と地域調査】 ●地域の方法 【世界の諸地域の生活・文化と環境】	○地域調査に対する関心と課題意識を高め、調査した内容を図表などにまとめたりする。	○		○	
	2		●東アジアの暮らしに学ぶ ●南アジアの暮らしに学ぶ ●北アフリカ・西アジア・中央アジアの暮らしに学ぶ	○中国に関する学習課題を見出し、中国の急激な成長の理由と影響について地誌的に考察し、その過程や結果を整理できる。 ○インドに関する提示された諸資料から有用な情報を選択し読み取る。 ○北アフリカ・西アジア・中央アジアに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し捉えようとする。		○		○
	3	20	●中南アフリカの暮らしに学ぶ ●ヨーロッパの暮らしに学ぶ ●ロシアと周辺諸国の暮らしに学ぶ ●北アメリカの暮らしに学ぶ ●中央・南アメリカの暮らしに学ぶ  <第4回考査>	○中・南アフリカに関する学習課題を見出し、地球的課題について地誌的に考察し、課題やその解決法について自分の考えを論述していく。 ○ヨーロッパ、ロシアに関する学習課題を見出し、地域的特色や人口問題などについて地誌的に考察し、その結果について整理する。  ○北アメリカに関する学習課題を見出し、地域にみられる特色や生活水準の格差などについて地誌的に考察し、その結果について整理する。 ○中央・南アメリカに関する学習課題を見出し、地球的課題について地誌的に考察し、課題やその解決法について自分の考えを論述していく。	○	○	○	○
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	地歴科・地理B	単位数	4単位
		学科・学年・学級	普通科・2年・文系クラス

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	①教科書：帝国書院『新詳地理B』 帝国書院『新詳高等地図』 ②資料集：東京法令出版『新編地理資料 2022』

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出	20%
b. 思考・判断・表現	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・定期考査	10%
c. 技能	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・課題提出 ・ノート提出	10%
d. 知識・理解	現代世界の地理的な事象から課題を見出し、諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・課題提出 ・ノート提出 ・定期考査	60%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	40	《さまざまな地図と地理的 技能》 【地理情報と地図】 ●地図の発達 ●地図の種類とその利用 ●地理情報の地図化 【地図の活用と地域調査】 ●地図の活用 ●身近な地域の調査	○地球が球体であるため、面積・形・距離・方位が全て正しい地図はありえないことを理解する。 ○世界地図各々の特徴を理解する。特にメルカトル図法と正距方位図法の特徴には注意する。 ○統計地図の種類と特徴を理解し、用途に適した地図を使えるようにする。 ○地形図に関する基本的な知識を学習し、地図の利用について、理解を深める。 ○地域調査に対する関心と課題意識を高め、調査した内容を図表などにまとめたりする。	○	○		○
	5		《現代世界の系統地理的 考察》 【自然環境】 ●世界の地形 ●世界の気候	○人間の生活の場である地形は46億年にわたる地球史の産物であり、変化と多様性に富んでいることを理解する。 ○内の営力による地形の成因と人間生活の関わりについて考える。また、外的営力による様々な地形の成因別特徴と形成プロセスを学習する。 ○気候環境を構成している気候要素について理解する。 ○気候区分類の理解を通じて、目に見えない大気の現象と人間生活への影響を把握する。気候を総合的に捉えることにより、環境としての植生や土壌の理解を深める。	○	○	○	○
	6		<第1回考査>  ●日本の自然の特徴と 人々の生活	○日本の自然環境を学習し、私たちの生活との関連を考える。 ○日本各地で起こりうる災害を予測するとともに減災について考察し、災害時に適切な行動が出来る。	○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期 後期	7	32	<b>【資源と産業】</b> ●世界の農林水産業 ●食糧問題	○地域によって異なる農業・林業・水産業が成立していることに気づき、自然環境や社会環境の中で、私たちの生活とどのような関わりがあるのか理解する。 ○世界経済の発展に伴い農業形態の地域分化が進んだことを理解する。 ○各農業地域が抱えている問題点について考える。 ○食料生産が不安定な地域や食料を輸入にたよる国の問題について考える。 ○世界の主なエネルギー・鉱産資源の特徴を理解する ○エネルギー・鉱産資源の生産と流通から生じる南北間の経済格差を理解し、その解決策を見出す。 ○熱帯林の破壊や地球の温暖化などを地球規模の環境問題について考える。	○	○	○	○
	8				○	○		○
	9				○	○	○	○
	10				○	○	○	○
	11				○	○	○	○
	12	○	○	○	○			
		28	●世界の工業 ●世界を結ぶ交通通信  ●現代世界の貿易と経済圏 <b>【人口・都市・村落】</b> ●人口問題 ●村落と都市  <第3回考査>	○各種工業の立地条件について理解する。 ○ヨーロッパとアメリカ合衆国の工業地域の変化について、工業立地の視点から理解する。 ○世界を結ぶ交通網の発達と現状について理解する。 ○世界の貿易が拡大する様子と貿易の問題について理解する。  ○先進国・発展途上国における人口問題の原因について考察し、解決方法を追及する。 ○村落の立地条件や発達の背景について理解する。 ○都市の発達の背景と都市人口の増加について理解する。 ○都市機能と周辺への影響について理解する。	○	○	○	○
後期	1	40	●都市・居住問題  《生活文化、民族・宗教》 ●世界の衣食住 ●民族と宗教 ●現代世界の国家 ●民族・領土問題 <第4回考査>	○先進国の都市問題の課題と都市の再生、発展途上国の都市問題の原因と課題について考察する。  ○世界の生活文化、民族・宗教に対する関心と課題意識を持ち、それを意欲的に追求し捉えようとする。またその分布や民族と国家の関係などを考察し、適切に表現できる。 ○国家の三要素や領海・排他的経済水域などについて理解する。 ○民族・領土問題を大観させ、その過程や結果を適切に表現する。	○		○	
	2				○	○		
	3					○	○	○

年間指導計画表

教科・科目	数学・数学Ⅱ+B	単位数	5
		学科・学年・学級	普通科・普通 第2学年文型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	指数関数・対数関数や微分・積分及びベクトルや数列の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。
使用教科書・副教材等	教科書：改訂版数学Ⅱ（数研出版）、改訂版数学B（数研出版） 問題集：改訂版サクシート数学Ⅱ+B（数研出版）、 改訂版 キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B（受験編）（数研出版） 参考書：改訂版チャート式基礎からの数学Ⅱ+B（数研出版） その他：自校作成プリント

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	指数関数・対数関数や微分・積分及びベクトルや数列における考え方や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	観察、課題、小テスト等	10%
b. 数学的な見方や考え方	指数関数・対数関数や微分・積分及びベクトルや数列において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	30%
c. 数学的な技能	指数関数・対数関数や微分・積分及びベクトルや数列において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	30%
d. 知識・理解	指数関数・対数関数や微分・積分及びベクトルや数列における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。	観察、定期考査、基礎力テスト、実力テスト等	30%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	18	数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数 指数の拡張 指数関数 対数とその性質 対数関数 常用対数	<ul style="list-style-type: none"> <li>累乗根や分数乗、対数などの考え方に興味をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとする。</li> <li>指数関数・対数関数の増減によって、大小関係や方程式、不等式を考察するなど、既知の事項をもとにして新しい事項について考察することができる。</li> <li>指数法則や対数の性質を利用して適切に式の処理ができたり、指数と対数を相互に書き換えられたりできる。</li> <li>指数関数や対数関数に関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○			
	5	13	数学B 第1章 平面上のベクトル 第1節 平面上のベクトルとその演算 ベクトルの演算 ベクトルの成分 ベクトルの内積	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベクトルやベクトルの内積などの考え方に興味をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとする。</li> <li>内積をもとにしてベクトルのなす角を考察するなど、既知の事項をもとにしてその関連事項を考察することができる。</li> <li>ベクトルを2つのベクトルの一次結合の形に表現できたり、ベクトルの大きさを内積に置き換えて扱ったりできる。</li> <li>ベクトルや内積に関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○	○		
	6	12	数学B 第1章 平面上のベクトル 第2節 ベクトルと平面図形 位置ベクトル ベクトルと図形 ベクトル方程式	<ul style="list-style-type: none"> <li>位置ベクトルやベクトル方程式などの考え方に興味をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとする。</li> <li>位置ベクトルを用いて平面図形の性質を考察するなど、ベクトルと図形を関連付けて考察することができる。</li> <li>交点の位置ベクトルを2つのベクトルと文字 <math>s</math> などを用いて表せたり、垂直条件を内積の考えを利用して式にすることができる。</li> <li>位置ベクトルやベクトル方程式に関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○	○	○	
	2	計45	第1回考査			○	○	○



7	18	数学B 第2章 空間のベクトル 空間の座標 空間のベクトル ベクトルの成分 ベクトルの内積 位置ベクトル ベクトルと図形 座標空間における図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空間ベクトルと平面ベクトルの違いや座標空間の考え方などに関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとする。</li> <li>・平面ベクトルの諸性質をもとにして空間ベクトルについてを考察するなど、既知の事項をもとにして新たな事項について考察することができる。</li> <li>・ベクトルの分解の一意性を計算に利用したり、線分の長さや垂直条件などを内積の考えを利用して式にすることができる。</li> <li>・空間ベクトルや座標空間に関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○	○	○	○	
8	9	25	数学B 第3章 数列 第1節 数列とその和 数列 等差数列とその和 等比数列とその和 和の記号 $\Sigma$ 、階差数列 いろいろな数列の和 第2節 数学的帰納法 漸化式と数列 数学的帰納法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等差数列や等比数列、漸化式や数学的帰納法などの考え方に関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとする。</li> <li>・数列の規則性をもとにして一般項を考察するなど、具体的な事項をもとにして一般性や規則などを考察することができる。</li> <li>・種々の公式を適切に利用して一般項を求めたり、漸化式を適切に変形してその数列の特徴を考察したりできる。</li> <li>・数列や和の記号<math>\Sigma</math>、数学的帰納法などに関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○	○	○	○
	2	第2回考査		○	○	○	○	
	計45							
10	11	29	数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 微分係数 導関数 第2節 導関数の応用 接線 関数の値の変化 最大値・最小値 関数のグラフと方程式・不等式 第3節 積分法 不定積分 定積分、面積	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平均変化率や微分係数、不定積分や定積分などの考え方に関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとする。</li> <li>・微分係数をもとにして関数の増減を考察したり、定積分が図形の計量に関して有用であることを認識したりしている。</li> <li>・関数に関わる諸問題に対して導関数を利用したり、直線や曲線で囲まれた図形の面積を求めるために図をかいて定積分の式を立てたりできる。</li> <li>・微分法や積分法に関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○	○	○	○
	2	数学Ⅱ：三角関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角関数の考え方について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</li> </ul>	○	○	○	○	
	2	数学Ⅱ：指数関数・対数関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指数関数・対数関数の考え方について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</li> </ul>	○	○	○	○	
12	2	第3回考査			○	○	○	
	計35							

後期	1	4	数学B:ベクトル	・ベクトルの考え方について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
		5	数学B:数列	・数列の考え方について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
		7	数学Ⅱ:微分法・積分法	・微分法や積分法の考え方について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
		3	数学Ⅰ:データの分析	・統計の基本的な考えを理解するとともに、それをを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	○	○	○	○
		5	数学A:場合の数と確率	・場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
	2	3	数学A:図形の性質	・平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
		4	数学A:整数の性質	・整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
		5	数学Ⅰ:2次関数	・2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
	3	4	数学Ⅱ:複素数と方程式	・複素数の性質についての理解を深め、その有用性を認識するとともに、方程式について考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
		4	数学Ⅰ:図形と計量	・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
		4	数学Ⅱ:図形と方程式	・座標や方程式の有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
		2	第4回考査			○	○	○
			計50					

【その他】

①1日1時間の復習を

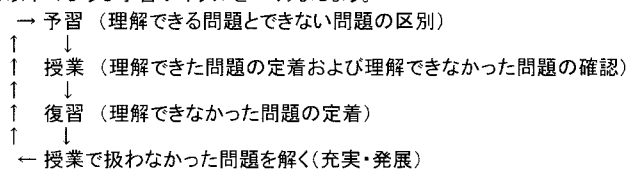
復習は、その日に学習した範囲を「サクシード」「チャート」を使った問題演習が基本です。

課題として与えられる場合と各人に任される場合など様々なケースが考えられますが、自分で「問題を解く」「計算をする」という作業は不可欠です。ドリルのような計算練習はおろそかにしないこと。また、新しい概念を習得するには時間がかかります。単に答えが出せるようになったからといって、すべて理解できたと勘違いしないように注意して下さい。解答の必然性に思いを馳せることも必要です。ただし、これらをするには静かな時間が必要です。

②自分の学習方法を確立すること

人に聞いて早く理解する人、自分で考えた方が腑に落ちる人など人は様々ですから、学習に関してはいろいろなタイプがあります。ただ、人は忘れるようにできていますから、一度マスターしたことも忘れそうな頃に思い出して(これが大切なことですが)ノートにやってみることを勧めます。そのときに学習する内容が本当の力になっていくわけです。日々学習してきた問題集や参考書が大いに助けてくれることでしょう。

③以下のような学習サイクルをつくりましょう。



年間指導計画表

教科・科目	数学・数学Ⅱ+B+Ⅲ	単位数	5
		学科・学年・学級	普通科・普通 第2学年理型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	指数関数・対数関数や極限・微分・積分及びベクトルや数列の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。
使用教科書・副教材等	教科書:改訂版数学Ⅱ(数研出版),改訂版数学B(数研出版),改訂版数学Ⅲ(数研出版) 問題集:改訂版サカイト数学Ⅱ+B(数研出版),改訂版サカイト数学Ⅲ(数研出版) 改訂版 キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B(受験編)(数研出版) 参考書:改訂版チャート式基礎からの数学Ⅱ+B(数研出版), 改訂版チャート式基礎からの数学Ⅲ(数研出版) その他:自校作成プリント

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	指数関数・対数関数や極限・微分・積分及びベクトルや数列における考え方や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	観察、課題、小テスト等	10%
b. 数学的な見方や考え方	指数関数・対数関数や極限・微分・積分及びベクトルや数列において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	観察、定期考査、基礎カテスト、実カテスト等	30%
c. 数学的な技能	指数関数・対数関数や極限・微分・積分及びベクトルや数列において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	観察、定期考査、基礎カテスト、実カテスト等	30%
d. 知識・理解	指数関数・対数関数や極限・微分・積分及びベクトルや数列における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。	観察、定期考査、基礎カテスト、実カテスト等	30%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	
前期	4	18	数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数 指数の拡張 指数関数 対数とその性質 対数関数 常用対数	<ul style="list-style-type: none"> <li>累乗根や分数乗、対数などの考え方に関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとする。</li> <li>指数関数・対数関数の増減によって、大小関係や方程式、不等式を考察するなど、既知の事項をもとにして新しい事項について考察することができる。</li> <li>指数法則や対数の性質を利用して適切に式の処理ができたり、指数と対数を相互に書き換えられたりできる。</li> <li>指数関数や対数関数に関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○		○		○
	5	13	数学B 第1章 平面上のベクトル 第1節 平面上のベクトルとその演算 平面上のベクトルの演算 ベクトルの成分 ベクトルの内積	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベクトルやベクトルの内積などの考え方に関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとする。</li> <li>内積をもとにしてベクトルのなす角を考察するなど、既知の事項をもとにしてその関連事項を考察することができる。</li> <li>ベクトルを2つのベクトルの一次結合の形に表現できたり、ベクトルの大きさを内積に置き換えて扱ったりできる。</li> <li>ベクトルや内積に関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○		○		○
	6	12	数学B 第1章 平面上のベクトル 第2節 ベクトルと平面図形 位置ベクトル ベクトルと図形 ベクトル方程式	<ul style="list-style-type: none"> <li>位置ベクトルやベクトル方程式などの考え方に関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとする。</li> <li>位置ベクトルを用いて平面図形の性質を考察するなど、ベクトルと図形を関連付けて考察することができる。</li> <li>交点の位置ベクトルを2つのベクトルと文字 <math>s</math> などを用いて表せたり、垂直条件を内積の考えを利用して式にすることができる。</li> <li>位置ベクトルやベクトル方程式に関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○		○		○
	2	計45	第1回考査			○	○	○	○

7	18	数学B 第2章 空間のベクトル 空間の座標 空間のベクトル ベクトルの成分 ベクトルの内積 位置ベクトル ベクトルと図形 座標空間における図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間ベクトルと平面ベクトルの違いや座標空間の考え方などに関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとする。</li> <li>平面ベクトルの諸性質をもとにして空間ベクトルについてを考察するなど、既知の事項をもとにして新たな事項について考察することができる。</li> <li>ベクトルの分解の一意性を計算に利用したり、線分の長さや垂直条件などを内積の考えを利用して式にすることができる。</li> <li>空間ベクトルや座標空間に関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○		○		○
		8	数学B 第3章 数列 第1節 数列とその和 数列 等差数列とその和 等比数列とその和 和の記号 $\Sigma$ 、階差数列 いろいろな数列の和 第2節 数学的帰納法 漸化式と数列 数学的帰納法	<ul style="list-style-type: none"> <li>等差数列や等比数列、漸化式や数学的帰納法などの考え方に関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとする。</li> <li>数列の規則性をもとにして一般項を考察するなど、具体的な事項をもとにして一般性や規則などを考察することができる。</li> <li>種々の公式を適切に利用して一般項を求めたり、漸化式を適切に変形してその数列の特徴を考察したりできる。</li> <li>数列や和の記号<math>\Sigma</math>、数学的帰納法などに関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○		○	
	2	第2回考査			○	○	○	○
計45								
10	21	数学II 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 微分係数 導関数 第2節 導関数の応用 接線 関数の値の変化 最大値・最小値 関数のグラフと方程式・不等式 第3節 積分法 不定積分 定積分、面積	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均変化率や微分係数、不定積分や定積分などの考え方に関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとする。</li> <li>微分係数をもとにして関数の増減を考察したり、定積分が図形の計量に関して有用であることを認識したりしている。</li> <li>関数に関わる諸問題に対して導関数を利用したり、直線や曲線で囲まれた図形の面積を求めるために図をかいて定積分の式を立てたりできる。</li> <li>微分法や積分法に関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○		○		○
		11						
12	6	数学III 第3章 関数 分数関数 無理関数 逆関数と合成関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数の考え方について関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとする。</li> <li>関数の定義をもとにして共有点の座標を考察したり、具体的なグラフをもとにして一般性や規則などを考察することができる。</li> <li>関数のグラフを表現できたり、共有点の座標や方程式の解を求めることができる。</li> <li>関数の定義やグラフを理解し、利用できる。</li> </ul>	○		○		○
		6						
	6	数学III 第4章 極限 第1節 数列の極限 数列の極限 無限等比級数 無限級数	<ul style="list-style-type: none"> <li>数列の極限や級数の考え方に関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとする。</li> <li>収束条件をもとにして数列の極限を考察したり、部分和の極限が無限級数の和に有用であることを認識したりしている。</li> <li>極限に関わる諸問題に対して収束条件を利用したり、無限等比級数の和の式を立てたりできる。</li> <li>数列の極限に関わる条件、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○		○		○
		2	第3回考査			○	○	○
計35								

後期	1	7	数学Ⅲ 第4章 極限 第2節 関数の極限 関数の極限 三角関数と極限 関数の連続性	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数の極限や連続性の考え方に興味をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとする。</li> <li>関数の片側からの極限をもとにして関数の極限を考察したり、はさみうちの原理が極限値を求めるのに有用であることを認識したりしている。</li> <li>極限に関わる諸問題に対して公式を活用できたり、関数の連続性を述べたりすることができる。</li> <li>関数の極限に関わる性質、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○		○		○
		9	数学Ⅲ 第5章 微分法 微分係数と導関数 導関数の計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>微分係数や導関数の性質に関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとする。</li> <li>微分係数をもとにして導関数の性質を考察するなど、既知の事項をもとにして新たな事項について考察することができる。</li> <li>いろいろな関数の導関数を証明し、活用できる。</li> <li>導関数に関わる性質、計算方法を理解し、利用できる。</li> </ul>	○		○		○
		14	数学Ⅲ 第6章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 接線と法線 平均値の定理 関数の増減とグラフ 方程式、不等式 第2節 速度と近似式 速度と加速度 近似式	<ul style="list-style-type: none"> <li>導関数の性質や速度などに関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとする。</li> <li>導関数をもとにして関数の増減を考察したり、グラフが方程式などの様々な問題に有用であることを認識したりしている。</li> <li>導関数に関わる諸問題に対して増減表を利用したり、極値や最大値、最小値を求めたりすることができる。</li> <li>導関数に関わる性質、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○		○		○
		18	数学Ⅲ 第7章 積分法 第1節 不定積分 不定積分 置換積分法 部分積分法 第2節 定積分 定積分 定積分の置換積分法 定積分の部分積分法	<ul style="list-style-type: none"> <li>不定積分や定積分の考え方に興味をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとする。</li> <li>微分法をもとにして不定積分の性質を考察したり、置換積分法が不定積分に有用であることを認識したりしている。</li> <li>積分に関わる諸問題に対して様々な積分法を適切に利用したり、定積分を求めることができる。</li> <li>積分に関わる性質、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○		○		○
		2	第4回考査				○	○	
計50									

【その他】

①1日1時間の復習を

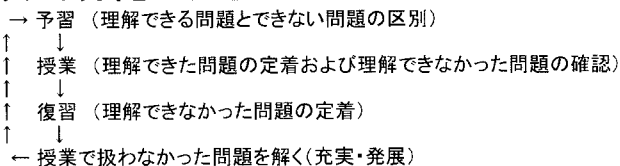
復習は、その日に学習した範囲を「サクシード」「チャート」を使って問題演習することが基本です。

課題として与えられる場合と各人に任される場合など様々なケースが考えられますが、自分で「問題を解く」「計算をする」という作業は不可欠です。ドリルのような計算練習はおろそかにしないこと。また、新しい概念を習得するには時間がかかります。単に答えが出せるようになったからといって、すべて理解できたと勘違いしないように注意して下さい。解答の必然性に思いを馳せることも必要です。ただし、これらをするには静かな時間が必要です。

②自分の学習方法を確立すること

人に聞いて早く理解する人、自分で考えた方が腑に落ちる人など人は様々ですから、学習に関してはいろいろなタイプがあります。ただ、人は忘れるようにできていますから、一度マスターしたことで忘れそうな頃に思い出して(これが大切なことですが)ノートにやってみることを勧めます。そのときに学習する内容が本当の力になっていくわけです。日々学習してきた問題集や参考書が大いに助けしてくれることでしょう。

③以下のような学習サイクルをつくりましょう。



年間指導計画表

教科・科目	数学・数学A+数学演習α	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科・創造表現コース 第2学年選択者

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	場合の数と確率、図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。また、数学I・Aの問題演習を通じて教科の内容理解を深めるとともに、数学的な見方や考え方、技能を身につけさせる。
使用教科書・副教材等	教科書：改訂版 高等学校数学A(数研出版) 問題集：改訂版教科傍用 基本と演習テーマ数学A(数研出版)、 大学入学共通テスト準備問題集数学I・A(数研出版) その他：自校作成プリント

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	場合の数と確率、図形の性質を含む数学I Aの各分野の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	観察、課題、小テスト等	10%
b. 数学的な見方や考え方	場合の数と確率、図形の性質を含む数学I Aの各分野において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	観察、定期考査、確認テスト、実力テスト等	30%
c. 数学的な技能	場合の数と確率、図形の性質を含む数学I Aの各分野において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	観察、定期考査、確認テスト、実力テスト等	30%
d. 知識・理解	場合の数と確率、図形の性質を含む数学I Aの各分野における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。	観察、定期考査、確認テスト、実力テスト等	30%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	39	第1章 場合の数 第1節 場合の数 集合の要素の個数 場合の数 順列 円順列・重複順列 組合せ 第2節 確率 事象と確率 確率の基本的性質 独立な試行の確率 反復試行の確率 条件付き確率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合、和の法則や積の法則、乗法定理や加法定理などの考え方に関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとしている。</li> <li>・積の法則をもとにして順列の総数を考察するなど、既知の事項をもとにして複雑な場合の数の総数や確率を考察することができる。</li> <li>・具体的な問題に対して、和の法則や積の法則、集合の性質や加法定理など考えを利用して式にすることができる。</li> <li>・集合や場合の数、確率に関わる用語、記号、公式を理解し、利用できる。</li> </ul>	○			
	5				○			
6	○							
		1	第1回考査		○	○	○	
		計40						
	7	31	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 三角形の辺と比 三角形の外心、内心、重心 チェバの定理、メネラウスの定理 円に内接する四角形 円と直線、方べきの定理 2つの円の位置関係 第2節 空間図形 直線と平面 多面体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな図形の性質や定理に関心をもつとともに、それらのよさを認識し活用しようとしている。</li> <li>・既習事項を用いて図形の性質を証明できたり、複数の図形の関係を動的な面から観察することができる。</li> <li>・適切な補助線を引いて考察したり、定理を適切に利用して考察できる。</li> <li>・図形に関するさまざまな定理や性質を理解し、利用できる。</li> </ul>	○			
8	○							
9	○							
		1	第2回考査		○	○	○	
		計32						

後期	10	12	数学 I : 数と式	・数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
	11	15	数学 I : 2次関数	・2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
		1	第3回考査			○	○	○
		計28						
	12	8	数学 I : 図形と計量	・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
	1	3	数学 I : データの分析	・統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	○	○	○	○
	2	12	数学A: 場合の数と確率	・場合の数や確率についての原理・法則などを体系的に理解し、それらの有用性を認識するとともに事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
		16	数学A: 図形の性質	・平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
	3	1	第4回考査			○	○	○
		計40						

【その他】

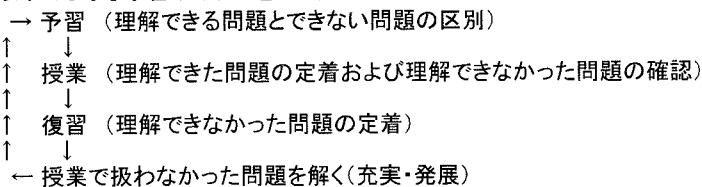
①予習について

まず解答を見ずに解いてみましょう。解けた問題と解けなかった問題を明確にし、解けなかった問題を授業で確認するようにするとよいでしょう。

②復習について

一度答案を整理した後、解答を見ずに答案が書けるようにしましょう。難しいときは、見まねでもよいので、他の人が見てもよく分かる答案を作るようにしましょう。

③以下のような学習サイクルをつくりましょう。



年間指導計画表

教科・科目	理科・化学基礎	単位数	2単位
		学科・学年・学級	2年生普通科普通文型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:化学基礎(啓林館) 問題集:セミナー化学基礎(第一学習社) 資料集:改訂版 フォトサイエンス 化学図録(数研出版)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	提出物 授業態度 実験操作	10%
b. 思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	考査 小テスト レポート 授業態度	20%
c. 技能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	考査 実験操作 レポート 授業態度	10%
d. 知識・理解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	考査 提出物 小テスト	60%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期前半 (第1回)	4	20	物質の状態	単体、化合物及び混合物について理解するとともに、実験における基本操作を身に付けること。粒子の熱運動と温度及び物質の三態変化との関係について理解すること。	○	○		○
	5		物質の構成粒子	原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解すること。元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解すること。	○	○		○
	6		第1回考査			○	○	○



前期後半 (第2回)	7	16	化学結合	イオンの生成を電子配置と関連付けて理解すること。また、イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解すること。金属結合及び金属の性質を理解すること。共有結合を電子配置と関連付けて理解すること。また、分子からなる物質の性質を理解すること。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	8		物質量と化学反応式	物質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解すること。化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解すること。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	9		第2回考査			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
後期後半 (第3回)	10	14	酸と塩基	酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解すること。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	11		第3回考査		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	12				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
後期後半 (第4回)	12	20	酸化還元反応	酸化と還元が電子の授受によることを理解すること。また、酸化還元反応と日常生活や社会とのかかわりについて理解すること。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	1		第4回考査			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	2					<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	3						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	理科・地学基礎	単位数	2単位
		学科・学年・学級	2年生普通科普通文型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:地学基礎 改訂版(啓林館) 資料集:十訂版スクエア最新図説地学(第一学習社) 問題集:セミナー地学基礎(第一学習社) 改訂版リードLightノート地学基礎(数研出版)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	各テーマにおいて、興味・関心を持って取り組んでいるか。授業・実験・観察に意欲的に取り組み、より深く理解しようと努めている。	提出物 小テスト 授業態度	10%
b. 思考・判断・表現	各テーマにおいて、地学的な事物・現象について疑問を持ち、問題点を科学的に考察し、そこから導き出した考えを表現することができる。	考查 小テスト レポート 授業態度	20%
c. 技能	各テーマにおいて、実験・観察の技能を習得しているか。また観察・実験の過程や結果をまとめ、考察した考えを表現できる。	考查 レポート 授業態度	10%
d. 知識・理解	各テーマにおいて、地学的な事物・現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、それを知識として身につけている。	考查 提出物 小テスト	60%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	
前期前半 (第1回)	4	20	オリエンテーション 1. 惑星としての地球 ①地球の形と大きさ ②地球の内部の層構造 2. 変動する地球 ③プレートの運動 ④火山活動と地震  第1回考查	・地球の形の特徴と大きさについて、歴史的背景を踏まえながら理解している。 ・地球内部の層構造とその状態を科学的な根拠に基づいて推測し、理解している。 ・プレートの分布と運動及びプレート運動に伴う大地形の形成について、図や写真を参考にして他者と議論することを通して、プレート移動の考え方を身につけている。 ・火山活動の仕組みについて、火成岩の観察実習を通して、マグマの性質やプレート運動を関連付けながら理解している。 ・地震の発生の仕組みについて理解するとともに、最近の震災について議論することを通して防災意識を高める。				○	
	5					○			
	6						○	○	
【第1回の評価方法】 第1回考查、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。							○	○	○

前期後半 (第2回)	6	16	3. 移り変わる地球 ①地層の形成 ②古生物の変遷と地球環境  第2回考査	・地層が形成される仕組みと地質構造について、堆積物や堆積環境の形成過程など、地学的な根拠に基づいて理解している。 ・古生物の変遷と地球環境の変化について、化石や地層の堆積構造などに基づいて理解している。	○		○	○
	7				○		○	
	8				○		○	
	9				○		○	
【第2回の評価方法】 第2回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。								
後期前半 (第3回)	10	14	4. 大気と海洋 ①地球の熱収支 ②大気と海水の運動  第3回考査	・大気と地球全体の熱収支について興味を持つとともに、他者との議論などを通して、地球全体における熱収支の考え方を身につけている。 ・大気の大循環と海水の運動及びそれらによる地球規模の熱の輸送について、観察・実験から考察し、表現することができるとともに、その考え方を理解している。 ・日本の四季における気象現象について、気圧配置や熱循環の原理・法則に基づいて理解している。	○			○
	11				○		○	
	12				○		○	
					○		○	
【第3回の評価方法】 第3回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。								
後期後半 (第4回)	1	20	5. 宇宙の構成 ①太陽と恒星 ②宇宙のすがた  第4回考査	・太陽系の誕生とそれらを構成する天体について、興味を持ち科学的な根拠に基づいて理解している。 ・太陽の表面の現象と太陽のエネルギー源について、観察・実験を通して理解することができる。 ・恒星としての太陽の進化を、図や表にまとめながら表現することができる。 ・宇宙の誕生と銀河の分布について理解している。	○			○
	2				○		○	
	3				○		○	
					○		○	
【第4回の評価方法】 これまでの評価を加味し、総合的に評価する。								
【年間の学習状況の評価方法】 前期前半から後期後半までの評価を総合し、年間の評価とする。								

## 年間指導計画表

教科・科目	理科・地学基礎	単位数	2単位
		学科・学年・学級	2年生普通科創造表現コース

## 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
使用教科書・副教材等	教科書:地学基礎 改訂版(啓林館) 資料集:十訂版スクエア最新図説地学(第一学習社) 問題集:セミナー地学基礎(第一学習社) 改訂版リードLightノート地学基礎(数研出版)

## 2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	各テーマにおいて、興味・関心を持って取り組んでいるか。授業・実験・観察に意欲的に取り組み、より深く理解しようと努めている。	提出物 小テスト 授業態度	10%
b. 思考・判断・表現	各テーマにおいて、地学的な事物・現象について疑問を持ち、問題点を科学的に考察し、そこから導き出した考えを表現することができる。	考査 小テスト レポート 授業態度	20%
c. 技能	各テーマにおいて、実験・観察の技能を習得しているか。また観察・実験の過程や結果をまとめ、考察した考えを表現できる。	考査 レポート 授業態度	10%
d. 知識・理解	各テーマにおいて、地学的な事物・現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、それを知識として身につけている。	考査 提出物 小テスト	60%

## 3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	
前期前半 (第1回)	4	20	オリエンテーション 1. 惑星としての地球 ①地球の形と大きさ ②地球の内部の層構造 2. 変動する地球 ③プレートの運動 ④火山活動と地震  第1回考査	・地球の形の特徴と大きさについて、歴史的背景を踏まえながら理解している。 ・地球内部の層構造とその状態を科学的な根拠に基づいて推測し、理解している。 ・プレートの分布と運動及びプレート運動に伴う大地形の形成について、図や写真を参考にして他者と議論することを通して、プレート移動の考え方を身につけている。 ・火山活動の仕組みについて、火成岩の観察実習を通して、マグマの性質やプレート運動を関連付けながら理解している。 ・地震の発生の仕組みについて理解するとともに、最近の震災について議論することを通して防災意識を高める。				○	
	5					○		○	
	6							○	○
【第1回の評価方法】 第1回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。					○	○	○	○	

前期後半 (第2回)	6	16	3. 移り変わる地球 ①地層の形成 ②古生物の変遷と地球環境	・地層が形成される仕組みと地質構造について、堆積物や堆積環境の形成過程など、地学的な根拠に基づいて理解している。 ・古生物の変遷と地球環境の変化について、化石や地層の堆積構造などに基づいて理解している。	○		○	○
	7					○		○
	8					○	○	○
	9	第2回考査						
【第2回の評価方法】 第2回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。								
後期前半 (第3回)	10	14	4. 大気と海洋 ①地球の熱収支 ②大気と海水の運動	・大気の大循環と海水の運動及びそれらによる地球規模の熱の輸送について、観察・実験から考察し、表現することができる。・日本の四季における気象現象について、気圧配置や熱循環の原理・法則に基づいて理解している。	○			○
	11					○	○	
	12					○		○
		第3回考査						
【第3回の評価方法】 第3回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。								
後期後半 (第4回)	1	20	5. 宇宙の構成 ①太陽と恒星 ②宇宙のすがた	・太陽系の誕生とそれらを構成する天体について、興味を持ち科学的な根拠に基づいて理解している。 ・太陽の表面の現象と太陽のエネルギー源について、観察実習を通して理解することができる。 ・恒星としての太陽の進化を、図や表にまとめながら表現することができる。 ・宇宙の誕生と銀河の分布について理解している。	○			○
	2					○	○	
	3					○		○
		第4回考査						
【第4回の評価方法】 これまでの評価を加味し、総合的に評価する。								
【年間の学習状況の評価方法】 前期前半から後期後半までの評価を総合し、年間の評価とする。								

年間指導計画表

教科・科目	理科・物理	単位数	2単位
		学科・学年・学級	2年生普通科普通理型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高めるために、演示実験、生徒実験を多く行い、物理学的に探究する能力と態度を育てる。また、講義を通して、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。 具体的には、力学、波動(音・光の性質を含む)を学習し知識や科学的考察力の定着・涵養を目標とする。
使用教科書・副教材等	教科書:高等学校 物理(第一学習社) 問題集:セミナー物理(第一学習社)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	各テーマについて興味・関心を持って取り組んでいるか。授業・実験・観察に意欲的に取り組み、より深く理解しようと努めているか。これらをノート、プリント、考査、実力テストおよび授業態度から評価する。	提出物 授業態度 実験操作	10%
b. 思考・判断・表現	物理現象について疑問を持ち、問題点を客観的に把握できるか。またその問題点の解決方法が着想できるか。これらをノート、プリント、考査、実力テストから評価する。	考査 小テスト レポート 授業態度	20%
c. 技能	実験・観察の技能を習得しているか。その結果を表やグラフにしてわかりやすく表現し、かつ文章で表現できるか。これらをノート、プリント、レポート、考査、実力テストを通して評価する。	考査 実験操作 レポート 授業態度	10%
d. 知識・理解	物理現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、それを知識として身につけているか。これらを考査、実力テスト、プリント、ノートを通して評価する。	考査 提出物 小テスト	60%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期前半 (第1回)	4	20	オリエンテーション 1. 波の伝わり方 ①波の伝わり方とその表し方 ②波の干渉と回折  2. 音 ①音の干渉と回折  第1回考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>●波の伝わり方とその表し方について理解すること。</li> <li>・波の表し方について、波の式および位相を理解すること。</li> <li>・ホイヘンスの原理、反射・屈折及び関連して屈折率を理解すること。</li> <li>●波の干渉と回折について理解すること。</li> <li>・水面波の回折や干渉とその性質を理解すること。</li> <li>・実験:水波実験器</li> <li>●音の干渉と回折について理解すること。</li> <li>・実験を通して音の干渉を理解すること。</li> <li>・音の回折および音の屈折を理解すること。</li> <li>・実験:スピーカーを使った音の干渉実験装置</li> </ul>	○			
	5					○		
	6				○		○	
【第1回の評価方法】 第1回考査、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。					○	○	○	○

前期後半 (第2回)	6	②音のドップラー効果  3. 光 ① 光の伝わり方  第2回考査	●音のドップラー効果について理解すること。 ・音源や観測者が同一直線上を動いているときに観測されるドップラー効果の現象について理解すること。 ・音源が音速以上の速さで動いているときに衝撃波について理解すること。 ●光の伝わり方について ・反射、屈折、分散、偏光について、観察、実験を通して理解すること。 ・光の速さの測定方法の歴史、光のスペクトルと色との関係を理解すること。 ・鏡について反射の法則や、レンズや凹面鏡についての光の進路の規則性を理解すること。 ・偏光板の実験やプリズムを用いた光の観察を通して、光は横波であることを理解すること。	○				
	7			○		○		
	8			○			○	
	9			○	○	○	○	
【第2回の評価方法】 第2回考査、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。								
後期前半 (第3回)	10	②光の回折と干渉  第3回考査	●光の回折と干渉について理解すること。 ・観察、実験を通して、光の回折、干渉を理解すること。 ・ヤングの実験、回折格子及び薄膜の干渉を理解すること。その際、光路差、反射による位相のずれについて理解すること。 ・実験:くさび形空気層の観察・ニュートンリングの観察	○	○	○	○	
	11			○	○	○		
	12			○	○	○	○	
【第3回の評価方法】 第3回考査、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。								
後期後半 (第4回)	1	3. 力学 ①平面内を運動する物体の運動  ②剛体のつり合い  ③運動量と力積  第4回考査	●平面内を運動する物体の運動について理解すること。 ・平面内の運動を表す変位、速度、加速度がベクトルで表されることを理解すること。 ・平面内の合成速度、相対速度を理解すること。 ・斜方投射について変位・速度・加速度を理解すること。 ●剛体のつり合いについて理解すること。 ・平面内で剛体に働く力と力のモーメントがつり合っている場合を、理解すること。 ・重心について理解すること。 ●運動量と力積の関係について理解すること。 ・運動量と力積がベクトルで表される量であり、物体の運動量の変化が物体に働く力積に等しいことを理解すること。 ●物体の衝突や分裂における運動量の保存について理解すること。 ・運動量保存の法則が成り立つことを理解すること。 ●衝突におけるはね返りについて理解すること。 ・はね返り係数について理解すること。 ・物体が衝突する際の力学的エネルギーの減少について、弾性衝突と非弾性衝突について理解すること。	○		○		
	2			○		○		
	3			○			○	
				○	○	○	○	
【第4回の評価方法】 第4回考査、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。								
【年間の学習状況の評価方法】 前期前半から後期後半までの評価を総合し、年間の評価とする。								

## 年間指導計画表

教科・科目	理科・化学基礎＋化学	単位数	2＋2単位
		学科・学年・学級	2年生普通科普通理型

## 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	化学と人間生活とのかかわりについて関心を高め、化学が物質を対象とする科学であることや化学が人間生活に果たしている役割を理解させる。また、化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
使用教科書・副教材等	教科書：啓林館 化学基礎 啓林館 化学(啓林館) 問題集：セミナー化学基礎＋化学(第一学習社) 資料集：改訂版 フォトサイエンス 化学図録(数研出版) 実験書：広島県高等学校化学実験書委員会編 広島県版 化学実験書

## 2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	提出物 授業態度 実験操作	10%
b. 思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	考査 小テスト レポート 授業態度	20%
c. 技能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	考査 実験操作 レポート 授業態度	10%
d. 知識・理解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	考査 提出物 小テスト	60%

## 3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期前半 (第1回)	4	40	物質の状態	単体、化合物及び混合物について理解するとともに、実験における基本操作を身に付けること。粒子の熱運動と温度及び物質の三態変化との関係について理解すること。	○	○		○
			物質の構成粒子	原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解すること。元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解すること。	○	○		○
	5		化学結合	イオンの生成を電子配置と関連付けて理解すること。また、イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解すること。金属結合及び金属の性質を理解すること。共有結合を電子配置と関連付けて理解すること。また、分子からなる物質の性質を理解すること。	○	○		○
	6		物質質量と化学反応式	物質質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解すること。化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解すること。	○	○		○
			第1回考査			○	○	○



前期後半 (第2回)	7	32	酸と塩基	酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解すること。	○	○	○	○
	8		酸化還元反応	酸化と還元が電子の授受によることを理解すること。また、酸化還元反応と日常生活や社会とのかかわりについて理解すること。	○	○	○	○
	9		第2回考査			○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
後期前半 (第3回)	10	28	化学反応と熱・光エネルギー	化学反応における熱及び光の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差から生じることを理解すること。	○	○		○
			化学反応と電気エネルギー	外部から加えた電気エネルギーによって、電極で酸化還元反応が起こることを理解すること。また、その反応に関与した物質の変化量と電気量との関係を理解すること。電池は、酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出す仕組みであることを理解すること。	○	○		○
	11	物質の状態変化	物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連付けて理解すること。また、状態変化に伴うエネルギーの出入り及び状態間の平衡と温度や圧力との関係について理解すること。	○	○		○	
		気体の性質	気体の体積と圧力や温度との関係を理解すること。	○	○		○	
		固体の性質	結晶格子の概念及び結晶の構造を理解すること。	○	○		○	
12	溶液の性質	溶解の仕組みを理解すること。また、溶解度を溶解平衡と関連付けて理解すること。身近な現象を通して溶媒と溶液の性質の違いを理解すること。	○	○		○		
後期後半 (第4回)	12	40	無機物質					
			非金属元素	水素、希ガス、ハロゲン、酸素、硫黄、窒素、リン、炭素、ケイ素の単体と化合物の性質や反応を周期表と関連付けて理解すること。		○	○	○
			典型金属元素	アルカリ金属、アルカリ土類金属、アルミニウム、亜鉛、スズ、鉛、水銀の単体と化合物の性質や反応を周期表と関連付けて理解すること。		○	○	○
			遷移元素	鉄、銅、銀、クロム、マンガンの単体と化合物の性質や反応について理解すること。		○	○	○
	3	生活と無機物質	無機物質が、その特徴を生かして人間生活の中で利用されていることを理解すること。		○	○	○	
第4回考査					○	○	○	○
【その他】								

年間指導計画表

教科・科目	理科・生物	単位数	2単位
		学科・学年・学級	2年生普通科普通理型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察や実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。 具体的には、細胞と分子、代謝、遺伝情報の発現などを学習し知識や科学的考察力の定着・涵養を目標とする。
使用教科書・副教材等	教科書: 高等学校 改訂 生物(第一学習社) 資料集: スクエア最新図説生物neo(第一学習社) 問題集: セミナー生物(第一学習社)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	提出物 授業態度 実験操作	10%
b. 思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	考査 小テスト レポート 授業態度	20%
c. 技能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	考査 実験操作 レポート 授業態度	10%
d. 知識・理解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	考査 提出物 小テスト	60%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期前半 (第1回)	4	20	第1章 細胞と分子 1. 生体物質と細胞	・生物体を構成する主な物質の化学的特性を理解する。 ・細胞は、細胞膜で外部と仕切られており、さまざまな細胞小器官の働きによって活動していることを理解する。	○	○	○	○
	5		2. 細胞膜の働きとタンパク質	・細胞膜を介した移動は、細胞膜のタンパク質によって担われていることを理解する。 ・細胞膜のタンパク質が細胞間の情報伝達に関与していることを理解する。 ・細胞膜のタンパク質によって細胞どうしが結合していることを理解する。		○		○
	6		第1回考査		○	○	○	○
【第1回の評価方法】 第1回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。								

前期後半 (第2回)	6	16	3. さまざまなタンパク質の働き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酵素の性質や働き、酵素反応の特徴を理解する。</li> <li>・細胞内で物質の輸送を担うタンパク質の種類や特徴を理解する。</li> <li>・免疫に関与するさまざまなタンパク質の働きを理解する。</li> </ul>	○	○		○	
	7		第2章 代謝					○	
	8		1. 代謝とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代謝とエネルギーの関係やATPの役割を理解する。</li> </ul>				○	
	9		2. 炭酸同化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光合成色素とその色素が吸収する光の波長について理解する。</li> <li>・光合成の過程を理解する。</li> <li>・細菌が行う光合成や化学合成について理解する。</li> </ul>	○		○	○	
			第2回考査		○	○	○	○	
【第2回の評価方法】 第2回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。									
後期前半 (第3回)	10	14	3. 窒素同化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物・動物の窒素同化の反応過程を理解する。</li> <li>・窒素固定細菌は空気中の窒素を吸収してアンモニウムイオンを合成することを理解する。</li> </ul>		○		○	
	11		4. 異化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発酵や呼吸によって有機物が分解され、ATPが合成される過程を理解する。</li> </ul>		○		○	
	12		第3回考査	実験: アルコール発酵	○	○	○	○	
【第3回の評価方法】 第3回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。									
後期後半 (第4回)	1	20	第3章 遺伝情報の発現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DNAは塩基の相補性をもとに複製されることを理解する。</li> <li>・遺伝情報にもとづいてタンパク質が合成されるしくみを理解する。</li> <li>・遺伝情報は変化することがあり、これに伴って合成されるタンパク質も変化する場合があることを理解する。</li> </ul>	○	○	○	○	
	2		1. 遺伝情報とその発現				○		○
	3		第4回考査			○	○	○	○
【第4回の評価方法】 第4回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。									
【年間の学習状況の評価方法】 前期前半から後期後半までの評価を総合し、年間の評価とする。									

年間指導計画表

教科・科目	保健体育・体育	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科普通・第2学年男女 普通科創造表現コース第2学年男女

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種運動の合理的な実践や競争・協同の経験を通して、運動技能を高め、競技の規則を守り、互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。</li> <li>健康・安全に留意して、運動すると共に体力の向上を図り、心身のバランスのとれた発育をうながす。</li> </ul>
使用教科書・副教材等	本校体育実技用ファイル ステップアップ高校スポーツ(大修館) 現代高等保健体育 (大修館)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、構成、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	授業 実技用ファイル	25%
b. 思考・判断・表現	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高め運動を継続するための計画を工夫している。	授業 実技用ファイル	25%
c. 技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	スキルテスト	25%
d. 知識・理解	運動の技術(技)の名称や行い方やルール、体力の高め方課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方について具体的な方法、スポーツの歴史、文化的な特性や現代スポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。	授業 実技用ファイル	25%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4		体づくり運動	「体育授業の受け方」について確認 集団行動、体カトレーニング、ラジオ体操	○	○	○	○
	5		選択Ⅰ(男女共修) 陸上競技、器械運動、水泳、球技、武道、ダンスから選択	各運動について、技・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を高めることが出来るようにする。武道では得意技を用いた攻防が展開できるようにする。 各運動に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようということ、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようということなどや、健康・安全を確保することが出来るようにする。	○	○	○	○
	6							
	39		ダンス(男女共修)	感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊りを高めて交流や発表が出来るようにする。 創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、対局の動きや空間の使い方に変化をつけて表現したり、イメージを強調した作品にまとまりて踊る。 現代的なリズムのダンスではリズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりをつけて仲間と対応して踊る。	○	○	○	○
	7		体育理論	「運動・スポーツの学び方」について学習する。 スポーツの技術と戦術 技能の上達過程と練習 効果的な動きのメカニズム	○	○		○
	8		体づくり運動	自己のねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立て取り組むことができるようにする	○	○	○	○
	9	12	ダンス		○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
後期	10	27	選択Ⅱ(男女共修) 球技、武道から選択	各運動について、技・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を高めることが出来るようにする。武道では得意技を用いた攻防が展開できるようにする。 各運動に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようということ、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうということ、合意形成に貢献しようということや、健康・安全を確保することが出来るようにする。	○	○	○	○
	11							
	12		体育理論		「運動・スポーツの学び方」について学習する 技能と体力 体力トレーニング 運動やスポーツでの安全の確保	○	○	
	1	27	陸上競技	自己に適したペースの維持やペースの変化に対応して走ることができるようにする 陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようということ、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうということ、合意形成に貢献しようということや、健康・安全を確保することが出来るようにする。	○	○	○	○
	2		マラソン大会 選択Ⅲ サッカー、バレーボールから選択		各運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間との連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようということ、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうということ、合意形成に貢献しようということや、健康・安全を確保することが出来るようにする。	○	○	○
3								
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種目の積極的な参加と運動の特性を理解し、自ら考え、工夫して取り組み、ゲームなどを楽しめるようになってほしい。</li> <li>・自分の体力を知り、自己の体力の向上に何が必要か課題意識を持ち、具体的な目標設定ができるようになってほしい。</li> <li>・運動技能の習得だけでなく、準備や後片付けなど協力共同の場面で積極的に行動してほしい。</li> <li>・安全に配慮し、互いが協力しながら楽しく授業に参加してほしい。</li> </ul> <p>・授業を休まない。また、見学をするときは、授業担当者に事前に申し出て、見学ノートを提出する。 ・体操服を忘れない。また、体操服をきちんと着用する。 ・授業開始時間を守る。(着替えを敏速にする。)</p>								

年間指導計画表

教科・科目	保健体育・保健	単位数	1
		学科・学年・学級	普通科普通・第2学年男女 普通科創造表現コース第2学年男女

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
使用教科書・副教材等	現代高等保健体育・現代高等保健体育ノート(大修館書店)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心を持ち、意欲的に取り組もうとする。	授業 提出物 定期テスト	30%
b. 思考・判断・表現	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表現している。	授業 提出物 定期テスト	30%
c. 技能			
d. 知識・理解	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について課題解決に役立つ基礎的な事項を理解している。	授業 提出物 定期テスト	40%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	10	思春期と健康	思春期における心身の変化、および健康課題について理解し、説明することができる。 性意識の男女差、性に関する情報が性行動の選択に影響を及ぼすことについて理解し、説明することができる。 心身の発達と結婚生活の関係、結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動について説明することができる。 妊娠・出産の過程における健康課題、妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて理解し、説明することができる。 家族計画の意義と適切な避妊法、人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響について理解し、説明することができる。 加齢にともなう心身の変化、中高年期を健やかに過ごすための個人のできる取り組みについて理解し、説明することができる。	○	○		○
			性意識と性行動の選択		○	○		○
	5		結婚生活と健康		○	○		○
			妊娠・出産と健康		○	○		○
	6		家族計画と人工妊娠中絶		○	○		○
			加齢と健康		○	○		○
			<b>《第1回考査》</b>		○	○		○
	7		高齢者のための社会的取り組み		○	○		○
	8		保健制度とその活用		○	○		○
	9		医療制度とその活用		○	○		○
	医薬品と健康	○	○		○			
	<b>《第2回考査》</b>	○	○		○			

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
後期	10	7	さまざまな保健活動や対策	健康づくりのためのさまざまな活動、民間機関や国際機関などの保健活動について理解し、説明することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
			大気汚染と健康	大気汚染の原因とその健康影響、大気にかかわる地球規模の環境問題について理解し、説明することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	11		水質汚濁、土壌汚染と健康	水質汚濁の原因とその健康影響、土壌汚染の原因とその健康影響、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染のかかわりについて理解し、説明することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
			健康被害の防止と環境対策	環境汚染を防ぐための取り組み、産業廃棄物の処理と健康問題について理解し、説明することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
		12		<b>《第3回考査》</b>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	1	10	環境衛生活動の仕組みと働き	ごみの処理の現状とその課題、上下水道の整備とし尿の処理について理解し、説明することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
			食品衛生活動の仕組みと働き	食品の安全性について理解し、行政、生産・製造者による衛生管理について説明することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
			食品と環境の保健と私たち	食品表示、食品の安全性の情報、食中毒の防止対策、環境の保健について理解し、説明することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
			働くことと健康	働くことの意義や健康とのかかわり、働き方と健康問題の変化について理解し、説明することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	2		労働災害と健康	労働災害および、労働災害を防ぐための安全管理と健康管理のしくみについて理解し、説明することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	健康的な職業生活		職場がおこなう健康増進対策、余暇の意義と活用のしかたについて理解し、説明することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
	3		<b>《第4回考査》</b>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
<b>【その他】</b>								
<p>「保健」という科目は、「健康を保つ」ことを学ぶ授業で、毎週1時間行われます。健康問題がテレビや新聞等で大きく取り扱われる現状の中で、正しい情報を取り入れ適切な生活行動を選択できるようになることが求められています。「保健」では、自分や家族の健康を保持増進するための基本的な事項を理解するだけでなく、日常生活の中の課題を見つけ出し解決の方法を導き出すことができるような授業を展開します。日常生活において、空気と同じようにあって当然、なくなると困るもの、それが健康です。毎日の生活の中で「体の健康」「心の健康」に目を向けましょう。</p>								

年間指導計画表

教科・科目	外国語 コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科普通・第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。
使用教科書・副教材等	教科書: Genius English CommunicationⅡ (大修館書店) 副教材: システム英単語 5訂版 (駿台文庫) Change the World [Standard] (いっすな書店)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業内観察 週末課題	20%
b. 思考・判断・表現	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	パフォーマンステスト 定期考査	30%
c. 技能	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	定期考査	20%
d. 知識・理解	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。	定期考査 単語テスト	30%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	30	Lesson1 Hanamizuki Lesson3 Nature Technology	(ねらい)リスニングとリーディングを通じた本文の内容理解を軸としつつ、語彙や文法の確認を適宜行う。また、読み取った内容について、英語で簡単に情報をまとめたり、わかりやすく話して伝えることができるようになることを目指す。				
				Lesson1 ・ハナミズキ(植物)が日米の親交にどのようにかかわったのか、理解することができる。	○		○	
	5			Lesson3 ・ハナミズキ(歌)に込められた思いを理解し、説明することができる。		○		○
	6		Lesson3 ・Nature Technologyがもつ利点について理解することができる。	○		○		
			・自分が生きる社会のよりよい在り方について考え、英語で説明することができる。		○		○	



学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	7・8	24	Lesson4 Ahmed's Gift of Life Lesson5 The World of Miyazawa Kenji Is Our World	Lesson4 ・紛争地域の惨状について、本文内容を通して理解することができる。 ・重要な判断をしなければならないとき、自分ならどうするか、またなぜそのようにするのか説明できる。	○	○	○	○
	9			Lesson5 ・本文の読解を通して、宮沢賢治の根底にある思想を理解することができる。 ・自分なりの“happiness”とは何かを考え、その理由とともに、書いたり話したりして伝えることができる。	○	○	○	○
後期	10	21	Lesson7 Dick Bruna:Profound Nature of Simplicity Lesson8 Emotions Gone Wild	リスニングとリーディングを通じた本文の内容理解を軸としつつ、語彙や文法の確認を適宜行う。また、読み取った内容について、英語で簡単に情報をまとめ、本文内容について考えたことを話す・書くといった活動を行うことで、発信力を養うことを目指す。				
	11			Lesson7 Miffyの作者であるBrunaが“Simplicity”を重視した理由について理解することができる。 ・「違いを認め合うために必要なこと」について考え、その理由とともに、話したり書いたりして説明することができる。	○	○	○	○
	12			Lesson8 ・人間とほかの動物の共通点や相違点を、本文を通して理解することができる。 ・人間が、他者やほかの生き物と調和して生きていくために必要なことを考え、その理由とともに、話したり書いたりして説明することができる。	○	○	○	○
	1	30	Lesson9 Justice with Michael Sandel: What's the Right Thing to Do? Change the World Lesson1～6	リスニングとリーディングを通じた本文の内容理解を軸としつつ、語彙や文法の確認を適宜行う。また、読み取った内容について、英語で簡単に情報をまとめ、本文内容について考えたことを話す・書く				
	2			Lesson9 ・本文で示されている命題と、それに関するSandel教授と学生たちの考えを理解することができる。 ・倫理に関する命題について、自分の立場と根拠を明らかにして、話したり書いたりして伝えることができる。 (副教材) リスニングとリーディングを通じた本文の内容理解を軸としつつ、語彙や文法の確認を適宜行う。	○	○	○	○
【その他】 パフォーマンステスト：前期にスピーキングテストを実施 音読テスト：春、夏、冬長期休暇明けに実施 リスニングテスト：実力テストの際に行うことを基本としつつ、年3回実施								

年間指導計画表

教科・科目	外国語 コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科創造表現・第2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。
使用教科書・副教材等	教科書: Genius English Communication II (大修館書店) 副教材: システム英単語 Basic 5訂版(駿台文庫)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業内観察 週末課題	20%
b. 思考・判断・表現	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	パフォーマンステスト 定期考査	30%
c. 技能	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	定期考査	20%
d. 知識・理解	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。	定期考査 単語テスト	30%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	
前期	4	30	Lesson1 Hanamizuki Lesson3 Nature Technology	(ねらい)リスニングとリーディングを通じた本文の内容理解を軸としつつ、語彙や文法の確認を適宜行う。また、読み取った内容について、英語で簡単に情報をまとめたり、わかりやすく話して伝えることができるようになることを目指す。					
	5			Lesson1 Hanamizuki Lesson3 Nature Technology	・ハナミズキ(植物)が日米の親交にどのようにかかわったのか、理解することができる。	○		○	
	6			Lesson3 Nature Technology	・ハナミズキ(歌)に込められた思いを理解し、説明することができる。		○		○
				Lesson3	・Nature Technologyがもつ利点について理解することができる。	○		○	
					・自分が生きる社会のよりよい在り方について考え、英語で説明することができる。		○		○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	7・8	24	Lesson4 Ahmed's Gift of Life Lesson5 The World of Miyazawa Kenji Is Our World	Lesson4 ・紛争地域の惨状について、本文内容を通して理解することができる。 ・重要な判断をしなければならないとき、自分ならどうするか、またなぜそのようにするのか説明できる。	○		○	
	9			Lesson5 ・本文の読解を通して、宮沢賢治の根底にある思想を理解することができる。 ・自分なりの“happiness”とは何かを考え、その理由とともに、書いたり話したりして伝えることができる。	○		○	○
後期	10	21	Lesson7 Dick Bruna: Profound Nature of Simplicity Lesson8 Emotions Gone Wild	リスニングとリーディングを通じた本文の内容理解を軸としつつ、語彙や文法の確認を適宜行う。また、読み取った内容について、英語で簡単に情報をまとめ、本文内容について考えたことを話す・書くといった活動を行うことで、発信力を養うことを目指す。				
	11			Lesson7 Miffyの作者であるBrunaが“Simplicity”を重視した理由について理解することができる。 ・「違いを認め合うために必要なこと」について考え、その理由とともに、話したり書いたりして説明することができる。	○		○	○
	12			Lesson8 ・人間とほかの動物の共通点や相違点を、本文を通して理解することができる。 ・人間が、他社やほかの生き物と唱和して生きていくために必要なことを考え、その理由とともに、話したり書いたりして説明することができる。	○		○	○
後期	1	30	Lesson2 Undokai in Malawi Lesson6 Machu Picchu: City in the Clouds Lesson9 Justice with Michael Sandel: What's the Right Thing to Do?	リスニングとリーディングを通じた本文の内容理解を軸としつつ、語彙や文法の確認を適宜行う。また、読み取った内容について、英語で簡単に情報をまとめ、本文内容について考えたことを話す・書くといった活動を行うことで、発信力を養うことを目指す。				
	2			Lesson2 ・Malawiで行われた「運動会」に関する情報と、開催の意義について、本文を通して理解することができる。 ・日本の文化が海外に輸出された例について調べ、英語を話したり書いたりして紹介することができる。 Lesson6 ・Machu Picchuに関する基本的な情報や、またMachu Picchuに関する考え方の変遷を、本文を通して理解することができる。 ・“Heritage”を将来の世代へ引き継いでいくことの意義を考え、説明することができる。 Lesson9 ・本文で示されている命題と、それに関するSandel教授と学生たちの考えを理解することができる。 ・倫理に関する命題について、自分の立場と根拠を明らかにして、話したり書いたりして伝えることができる。	○		○	○
<p>【その他】  パフォーマンステスト: 前期にスピーキングテストを実施  音読テスト : 春、夏、冬長期休暇明けに実施  リスニングテスト : 実力テストの際に行うことを基本としつつ、年3回実施</p>								

年間指導計画表

教科・科目	外国語 英語表現Ⅱ	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科普通・創造表現コース・2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。
使用教科書・副教材等	教科書: be English Expression Ⅱ (いっずな書店) 副教材: be English Expression Ⅱ Workbook Orange (いっずな書店) 総合英語 be (いっずな書店)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	ノート, 観察	20%
b. 思考・判断・表現	事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている	ノート, 観察, 小テスト, 定期考査	40%
c. 技能	聞いたり読んだりした情報や考えなどを的確に理解している。	ノート, 観察, 定期考査	20%
d. 知識・理解	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。	観察, 小テスト, 定期考査	20%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	10	Lesson 1~3 説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように話したり書いたりする。	授業を通して学んだことや、学校や家庭などにおける日常生活の中で学んだり経験したりしたことを積極的に活用して書いている。 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことについて、その概要や自分の考えを簡潔に書くことができる。 語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を的確に聞き取ったり、読み取ることができる。 「書くこと」の言語活動に用いられている語句や文構造、文法事項などについての知識を身に付けている。	○	○	○	○
	5	10	Lesson 4~6 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら聞いたり話したりする。	互いに協力しながら、質問したり意見を交換したりしている。 相手の発話に対して適切に応答することができる。 語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を的確に聞き取ったり、読み取ることができる。 「話すこと」の言語活動に用いられている語句や文構造、文法事項などについての知識を身に付けている。	○	○	○	○

後期	6 ・ 7 ・ 8	10	Lesson 7～9 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。	うまく表現できないことがあっても、既知の語句や表現を用いるなどして書き続けている。 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことについて、その概要や自分の考えを簡潔に書くことができる。 語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を的確に聞き取ったり、読み取ることができる。 場面や状況に応じた表現についての知識を身に付けている。	○		○		○
	9 ・ 10	10	Lesson 10～12 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。	授業を通して学んだことや、学校や家庭などにおける日常生活の中で学んだり経験したりしたことを積極的に活用して話している。 その場の状況、聞き手の反応、話題、伝えようとする内容や気持ちなどに応じた適切な速度や声の大きさを話することができる。 語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を的確に聞き取ったり、読み取ることができる。 場面や状況に応じた表現についての知識を身に付けている。	○		○		○
	11	10	Lesson 13～15 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連などを考えながら読んだり書いたりする。	読み手が理解しやすくなるように書いたり、書き直したりしている。 自分が伝えたいことについて、話題を明示した上で、それに関する意見やその理由を書くことができる。 語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を的確に聞き取ったり、読み取ることができる。 正しい語順や語法を用いて文を構成する知識を身に付けている。	○		○		○
	12 ・ 1	10	Lesson 16～18 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う。	互いに協力しながら、質問したり意見を交換したりしている。 情報や考えなどについて、互いに質問したり質問に答えたりすることができる。 語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を的確に聞き取ったり、読み取ることができる。 話合いや意見の交換を円滑に行うために必要な表現や方法についての知識を身に付けている。	○		○		○
	2 ・ 3	10	Lesson 19～21 主題を決め、様々な種類の文章を書く。	うまく表現できないことがあっても、既知の語句や表現を用いるなどして書き続けている。 トピック・センテンスやキーワードを適切に用いて、要点が明確な文章を書くことができる。つながりを示す語やフレーズを適切に用いて、論理の展開が明確な文章を書くことができる。 語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を的確に聞き取ったり、読み取ることができる。 段落におけるトピック・センテンスの働きについての知識を身に付けている。文と文、段落と段落のつながりを示す語やフレーズを理解している。	○		○		○
【その他】 ライティングテスト：年4回定期考査にて実施									

年間指導計画表

教科・科目	情報科「社会と情報」	単位数	2単位
		学科・学年・学級	普通科・2学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化が社会に及ぼす影響や課題について理解し、情報モラルを考慮しながら情報通信社会に積極的に参画する態度を育てる。</li> <li>・メディアの特性を踏まえ、情報を適切に収集・処理し、信憑性を判断したうえで、知的財産権やアクセシビリティ等に配慮し、責任をもって発信する力を身につける。</li> <li>・情報機器や情報通信ネットワークを活用し、他者とコミュニケーションをとりながら協働して問題を解決する力を身につける。</li> <li>・情報機器や情報通信ネットワークのしくみを科学的に理解し、進展する情報通信社会に対応する基礎的な知識を習得する。</li> </ul>
使用教科書・副教材等	教科書 数研出版 改訂版 高等学校「社会と情報」 副教材 実教出版 「ポイントでマスター 基礎からはじめる情報リテラシー office 2019対応」 数研出版 改訂版 高等学校「社会と情報 サポートノート」

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	情報や情報社会に関心をもち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。	授業態度 提出物・作品	25%
b. 思考・判断・表現	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。	定期考査 作品	25%
c. 技能	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。	実技テスト 作品・発表	25%
d. 知識・理解	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。	定期考査 実技テスト・作品	25%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期前半 (第1回)	4	5	・オリエンテーション ・コンピュータの基本操作 ・文書作成ソフトの基本操作 ○ポスター制作 ◎実技テスト (Word)	・クラウドサービスをはじめ情報を活用、整理、分析するためのツールについて理解する。 ・文書作成ソフトによる情報の表し方や処理のしくみを理解する。 ・文書作成ソフトを使ったポスターの作成を通し、情報デザインの基本を理解する。	○	○		○
	5	7			○		○	
	6	8			○	○	○	○
【第1回の評価方法】 授業プリントおよびノートの内容、授業への取り組み状況、実技テスト、課題等の提出物を総合的に判断して評価する。								

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	a	b	c	d
前期後半 (第2回)	6	1	・プレゼンテーションソフトの操作	・プレゼンテーションソフトの操作方法を理解する。 ・進路別研修の事前準備、課題発見をする。	○	○	○	○
	7	5	第1編 情報社会と情報モラル	・情報や情報技術と個人や社会生活との関わりを理解する。 ・情報通信社会における情報の役割について理解する。 ・メディアの意味と特徴を理解し、マスメディアの影響力について考える。	○	○		○
	8 9	2 8	第2編 デジタル情報と情報の活用	・インターネット上でのトラブル例を参考にし、対処方法を考える。 ・コンピュータ・情報のデジタル化の仕組みを学び、アナログとデジタルの特性を理解する。 ・コンピュータによる情報の表し方や処理のしくみを理解する。	○	○	○	○
			◎第2回定期考査		○	○	○	○
【第2回の評価方法】 授業プリントおよびノートの内容、授業への取り組み状況、定期テスト、課題等の提出物を総合的に判断して評価する。								
後期前半 (第3回)	10	7	・プレゼンテーションソフトの利用 ○PowerPointを利用した発表	・プレゼンテーションソフトによるスライドの作成 ・総合的な探究の時間と連携し、収集した情報を整理・活用する。	○	○	○	○
	11	7	・表計算ソフトの基本操作	・プレゼンテーション作品制作・発表・相互評価 ・表計算ソフトによる、情報処理の実習	○	○	○	○
			◎実技テスト (Excel)		○	○	○	○
【第3回の評価方法】 授業プリントおよびノートの内容、授業への取り組み状況、総合的な探究の時間と連携したの発表内容、実技テスト、課題等の提出物を総合的に判断して評価する。								
後期前半 (第4回)	12	7	第3編 情報通信ネットワーク	・コンピュータネットワークの基本的な仕組みを理解する。 ・情報通信社会における情報公開の在り方について考える。 ・サイバー犯罪の種類と特性を理解し、対策方法を理解する。	○	○	○	○
	1	6	第2編 情報セキュリティの確保	・情報通信社会が抱えるさまざまな問題について理解する。 ・だれもが暮らしやすい情報通信社会のあり方や未来像を考える。	○	○	○	○
	2	6		・班活動による発表を行い、コミュニケーション力を身に付け主体的な学習の態度を育む。 ・情報媒体を利用したコミュニケーションの特性を理解する。				
	3	1	◎第4回定期考査	・発表資料の作成・発表・振り返り・相互評価を行う。	○	○		○
【第4回の評価方法】 授業プリントおよびノートの内容、クラブWEBページ作成などの授業への取り組み状況、定期テスト、課題等の提出物を総合的に判断して評価する。								
【年間の学習状況の評価方法】 ◎テスト ○作品 ・定期考査(2回) 35% ・実技テスト(2回) 35% ・PowerPointなどの作品発表 13% ・提出物、授業および実習への取り組み態度等 17% で評価する。								

年間指導計画表

教科・科目	芸術科・構成	単位数	3
		学科・学年・学級	普通科(創造表現コース) 2年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い創造活動を通して創ることのよこびを知り、意欲的に制作する態度を養う。</li> <li>鑑賞する能力を身につけ、美術文化についての理解を深める。</li> <li>感性を高めて美しさを探求する態度を養い、美術を愛好する心情を育てる。</li> </ul>
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生の美術1(日本文教出版)</li> <li>美術 表現と鑑賞(開隆堂出版株式会社)</li> <li>実技用具など</li> </ul>

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	美に対する感動や、自己の考えを主体的に表現することができる。	授業態度、制作に対する意欲や姿勢	10%
b. 発想や構想の能力	多様な表現形式の特性を生かし、創造的な表現を追求することができる。	制作作品など	50%
c. 創造的な表現の技能	意図に応じて材料、用具を活かして表現することができる。	制作作品など	30%
d. 鑑賞の能力	美術の働きや美術作品の美しさ、特質等について自己の意見を持ち、互いに批評しあうなどすることができる。	鑑賞態度など	10%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4~5	20	陶芸実習(花器の制作)	陶芸の技法と表現の基礎について学ぶ ・機能と美しさの関わりについて理解する ・粘土と釉薬の性質について学ぶ ・陶芸技法について理解する	○		○	○
	6~7	25	静物水彩	水彩の表現について学ぶ ・水彩絵の具の特性を学ぶ ・水彩に多様な表現について学ぶ ・静物を観察し、立体感・質感の表現を学ぶ	○	○		○
	8~11	30	プロダクトデザインの構想・発表	デザインを構想する手順や発表について学ぶ ・デザインにおける造形の諸要素を学ぶ ・テーマを理解し、多様な視点から構想を練る ・プレゼンテーションボードの制作	○	○	○	○
後期	12	15	テーマ制作(構想)	これまでの授業で実践した技法・描画材を応用したテーマ制作の構想を練る ・テーマに応じた表現材料の研究と工夫 ・構想案を練り、下絵の用紙にまとめる	○	○		
	1~3	15	美術史	日本美術史の大まかな流れについて理解する ・古代~近代までの美術の歴史を学ぶ	○			○



年間指導計画表

教科・科目	芸術科・素描	単位数	2
		学科・学年・学級	普通科(創造表現コース) 2年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い創造活動を通して創ることのよこびを知り、意欲的に制作する態度を養う。</li> <li>鑑賞する能力を身につけ、美術文化についての理解を深める。</li> <li>感性を高めて美しさを探求する態度を養い、美術を愛好する心情を育てる。</li> </ul>
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生の美術1(日本文教出版)</li> <li>美術 表現と鑑賞(開隆堂出版株式会社)</li> <li>実技用具など</li> </ul>

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	美に対する感動や、自己の考えを主体的に表現することができる。	授業態度、制作に対する意欲や姿勢	10%
b. 発想や構想の能力	多様な表現形式の特性を生かし、創造的な表現を追求することができる。	制作作品など	50%
c. 創造的な表現の技能	意図に応じて材料、用具を活かして表現することができる。	制作作品など	30%
d. 鑑賞の能力	美術の働きや美術作品の美しさ、特質等について自己の意見を持ち、互いに批評しあうなどすることができる。	鑑賞態度など	10%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4	10	コンピュータグラフィックス演習	コンピュータを使った表現について ・タブレット、MAC、アプリケーション、コンピュータ周辺機器の使用方法について学ぶ	○		○	○
	5	16	卓上デッサン	卓上モチーフの構成・描写について ・モチーフ構成の方法について学ぶ ・質感や素材感および立体的な表現の研究	○		○	○
	6~9	10	平面構成	平面構成の基本について ・アクリルガッシュの特性と扱い方について学ぶ ・モチーフの特質と描写(色彩・形体・材質)について学ぶ ・構成による視覚効果(リズム・バランス)について学ぶ	○	○		○
後期	10~11	14	石膏デッサン	木炭および鉛筆による石膏素描について ・石膏像の形のとりかたについて学ぶ ・光源の意識/陰影のつけかたについて学ぶ ・像の量感・前後感の表現について学ぶ	○	○		○
	11~3	20	テーマ制作	これまでの授業で実践した技法・描画材を応用し、テーマに沿った表現を行う ・テーマに応じた表現材料の研究と工夫 ・内面の感情や気持ちを表現することを学ぶ	○	○	○	○

## 年間指導計画表

教科・科目	芸術科・美術創造	単位数	4
		学科・学年・学級	普通科(創造表現コース) 2年

## 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い創造活動を通して創ることのよこびを知り、意欲的に制作する態度を養う。</li> <li>美しさを探求し積極的に感じとる心を養う。</li> <li>作品を鑑賞する方法を学び、事物を見抜く力を養う。</li> </ul>
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生の美術1(日本文教出版)</li> <li>美術 表現と鑑賞(日本造形教育研究会/開隆堂出版株式会社)</li> <li>実技用具など</li> </ul>

## 2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	美に対する感動や、自己の考えを主体的に表現することができる。	授業態度、制作に対する意欲や姿勢	10%
b. 発想や構想の能力	多様な表現形式の特性を生かし、創造的な表現を追求することができる。	制作作品など	50%
c. 創造的な表現の技能	意図に応じて材料、用具を活かして表現することができる。	制作作品など	30%
d. 鑑賞の能力	美術の働きや美術作品の美しさ、特質等について自己の意見を持ち、互いに批評しあうなどすることができる。	鑑賞態度など	10%

## 3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期	4~6	40	絵画(イメージ)	古典音楽をモチーフに絵画表現を行う <ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな音楽を聴きイメージをスケッチする</li> <li>楽曲を決め鑑賞し、イメージを膨らませる</li> <li>楽器の音を具体的なイメージにする</li> <li>楽曲を起承転結に分け4場面のイメージ画を制作する</li> </ul>	○		○	○
	6~9	32	篆刻	篆書を学習し、落款の制作をする <ul style="list-style-type: none"> <li>篆書について学習する</li> <li>落款について学習する</li> <li>朱文と白文について</li> <li>落款の制作</li> </ul>	○	○		○
後期	10~12	34	土笛の制作	粘土を使って土笛とオカリナを制作する <ul style="list-style-type: none"> <li>音の出る作品を作る</li> <li>笛の音が出る仕組みを学ぶ</li> <li>制作した楽器で演奏をする</li> </ul>	○	○		○
	1~2	24	文と絵を組み合わせた水墨画の制作	和歌を選び文字と絵画で総合的に表現する <ul style="list-style-type: none"> <li>和歌を選びその内容を学ぶ</li> <li>内容に沿った情景をイメージする</li> <li>イメージに合った文字を表現する</li> <li>イメージに合った総合作品の制作を行う</li> </ul>	○		○	○
	3	10	陶印	篆刻の学習で学んだ基礎的技術をもとに、陶器の印を制作する <ul style="list-style-type: none"> <li>絵付けの基礎について学習する</li> </ul>	○	○		○